

武蔵大学国際教養学部国際教養学科

学生の確保の見通し等を記載した書類

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況	2
(1) 学生の確保の見通し	2
(2) 学生確保に向けた具体的な取組状況.....	10
2. 人材需要の動向等社会の要請	12
(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(概要)	12
(2) 上記(1)が社会的・地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的 な根拠.....	13

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

(1) 学生の確保の見通し

① 定員充足の見込み

1) 国際教養学部設置の背景

本学は開学以来、ゼミナールを基礎とした少人数教育を教育の柱とした学生数 4,000 人未満の小規模大学を維持し、建学の三理想に基づいた「自ら調べ自ら考え、他者を尊重しながら心を開いて対話を行い、世界に思いをめぐらしながら身近な場所で実践し、また世界にはばたいて文化的な交流や実務的な共同作業を担う自立した活力あるグローバル市民を育てること」を人材養成の目的としている。

学校法人根津育英会武蔵学園第三次中期計画(2016～2021 年度)においては、リベラルアーツ教育を基盤とした『グローバル市民』の育成を戦略的事項に掲げ 2015 年度に経済学部ではロンドン大学と武蔵大学とのパラレル・ディグリー・プログラム(以下、「PDP」という。)、2017 年度に人文学部ではグローバル・スタディーズコース(以下、「GSC」という。)、社会学部ではグローバル・データサイエンスコース(以下、「GDS」という。)を設け、グローバル教育をさらに深化させた。これらのグローバル化に特化した各コース・プログラムを志望する入学者が増加傾向にあることを受け、既設学部・学科の入学定員を見直すとともに、本学のグローバル化の推進と社会からの要請にさらに応えるため、国際教養学部を設置することとした。

2) 入学定員設定の考え方

本学部は、既設学部を設置していた経済学部のロンドン大学との PDP、人文学部の GSC を発展・拡充させた学部である。学部設置にあたっては、本学のグローバル化を推進する学部となるような教育研究の質と安定的な財政基盤の担保を前提としている。また、本学部は、既設学部の入学定員の見直しにより設置するため、大学全体の入学定員に変更は生じない。この前提条件のもと、本学の所在地である東京都の人口予測、地域別 18 歳人口の推移、大学進学者数の推計、私立大学の地域別や同系統学部の入学志願動向、既設学部の入学志願動向、高校生への進学動向調査結果等、本学を取り巻く状況を客観的なデータに基づき分析した結果を踏まえ、入学定員を設定している。その他、本学の就職実績や企業の採用意向調査の結果等、社会からの需要に関するデータも参考とした。

本学部の特色として、英語による授業、ロンドン大学の学位取得、留学や海外でのサービラーニング等の海外体験を掲げており、教育研究活動にはきめ細かな学生指導が必要不可欠であるため、既設学部と比して入学定員は少人数に設定する。また、極端に入学定員を少なく

することは教育効果や入学者選抜機能の低下を招く可能性があるため、適切な定員規模として入学定員を100人とする。

前述のとおり、本学部は既設学部を設置していた経済学部のPDPと人文学部のGSCを発展させた2専攻から構成されているため、それぞれのアドミッション・ポリシーに基づき募集人員を設ける。

3) 定員充足の見込み

定員充足の見込みについて、次のデータをもとに検証した。

本学は、関東圏からの志願者が全体の約9割を占めているため、本学が所在する東京都の人口予測や地域ブロック別18歳人口の推移、大学進学率から試算した。その結果、東京都の人口総数や東京圏の18歳人口の推移及び大学進学率について大きく減少することはない、中長期的な観点からみて学生確保は安定的に行われるといえる。

次に、本学部と競合する同系統学部の入学志願動向及び基礎となる既設学部の直近5年間の入学志願動向をみると社会科学系の志願者数は毎年度多く、また、人文科学系についても入学定員は減少しているものの志願倍率は高くなっているため一定数の志願者が見込まれると考えられる。さらに、本学部の基礎となる学部の入学志願動向からみて、いずれの学部においても志願倍率、入学者数ともに安定的に確保されているため、十分に定員は確保できると見込まれる。

加えて、本学部の学生確保の見通しを客観的に把握するため、本学部開設時に受験対象となる高校2年生4,400人を対象に進学意向調査を実施したところ「受験したいと思う」と回答した生徒は460人(43.6%)、「入学したいと思う」と回答した生徒は416人(39.4%)であった。本学部の入学定員は100人であることから、入学定員を十分に上回る志願者を確保できるといえる。

根拠データに関する詳細については後述するが、以上のことから入学者を十分に確保できると判断した。

② 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

1) 人口予測と大学進学者等の状況

本学は、関東圏からの志願者が全体の約9割、そのうち首都圏(東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県)からの志願者が8割以上を占めている【資料1】。学生募集は首都圏を中心に行っているため、本学が所在する東京都の人口推移や地域別の18歳人口の推移並びに大学進学率をもとに、定員充足の見込みについて検討した。

(ア) 東京都の人口予測

東京都総務局統計部作成「東京都区市町村別人口の予測」は、2015 年国勢調査結果を基準として将来の総人口を区市町村ごとに男女別に予測したものであり、予測期間は 2020 年、2025 年、2030 年、2035 年、2040 年の5時点である。当該データによると2015 年時点の東京都の人口数1,352 万人は、対2015 年比で増加し2025 年にピークを迎え、減少に転じるのは2040 年で1,346 万人(△0.4%)と予測されている。このことから、東京都の人口総数は2040 年まで比較的安定しているといえる【資料 2】。

(イ) 地域別の18 歳人口の推移及び大学進学率

文部科学省「学校基本統計」及び厚生労働省「人口動態調査」より国立教育政策研究所にて推計した「地域ブロック別18 歳人口の推移(2016 年以降の推計値)」によれば、東京圏の18 歳人口は2015 年の30.5 万人から2033 年には28.2 万人に減少するが、減少比率は△7.5%となっており、他の地域ブロックが△11.1%から△28.5%と大きく減少することと比べて小幅の減少率にとどまっている【資料 3-1】。

さらに、同研究所が行った2016 年から2033 年までの大学進学者数及び大学進学率に関する試算では、東京圏の進学者数等について次のように推計されている。

〔試算①〕

2033 年までの各年の大学進学率が、各県で2015 年の大学進学率と同率であると仮定した場合、全国の2033 年度進学者数は2015 年度進学者数に対して84.8%(△15.2%)となる。東京圏については、18.2 万人から17.3 万人へと5.1%の減少にとどまっており、他の地域ブロックと比べて減少率は小さい【資料 3-2】。

〔試算②〕

2033 年の大学進学率が、各県で2015 年の大学進学希望率(志望率)と同率であると仮定した場合、全国の2033 年度進学者数は2015 年度進学者数に対して94.0%(△6.0%)となる。東京圏については、18.2 万人から19.4 万人と6.5%増となっており、九州以外の地域ブロックでは全て大学進学者数が減少しているのに対し東京圏は増加すると想定される【資料 3-3】。

〔試算③〕

2033 年までの各県における大学進学数が、2015 年と同数であると仮定した場合、2033 年に東京圏の進学率は64.7%になると想定される【資料 3-4】。

上記、(ア)、(イ)から、本学の学生募集の中心となる東京都の人口総数や東京圏の18 歳人

口の推移及び大学進学率について大きく減少することはなく、中長期的な観点からみて学生を確保できると見込まれる。

2) 私立大学地域別の入学志願動向

日本私立学校振興・共済事業団が「学校法人基礎調査」をもとに作成した「私立大学・短期大学等入学志願動向」によると、東京都の私立大学の志願倍率(志願者÷入学定員)は2020年度までの過去5年間で全国平均を上回っている。また、東京都の入学定員充足率に関しては、2019年度以降、全国平均を若干下回っているが、これは2016年度から三大都市圏にある私立大学の入学定員管理が厳格化された影響であると考えられる。これらから、入学定員充足率は減少傾向にあるものの、志願倍率の高さを考えれば、東京都に所在する私立大学の学生確保は全国に比べて確実性が高いものといえる【資料4】。

また、文部科学省の「学校基本調査」を用いた「リクルート進学総研マーケットリポート vol74 18歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向 南関東版—埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県— 2020年1月号」によると、南関東の2019～2031年までの18歳人口は、2019年の306,595人から2031年には288,888人と5.8%減少するが、全国平均の減少率と比較すると6.2%下回り、南関東の減少率は小さいと考えられる。さらに、南関東の中でも本学の最も志願者の多い東京都の2031年の減少率は1.4%であり、十分に学生確保ができるといえる【資料5-1】。

加えて、2010～2019年の地元残留率の推移を見ると、南関東全体では2010年から2019年にかけて0.6%低下しているが、東京都に関しては、2010年から2019年にかけて2.9%上昇しており、この点からも十分に学生を確保できるといえる【資料5-2】。

3) 本学部と同系統学部の入学志願動向

同じく「私立大学・短期大学等入学志願動向」をもとに本学部と同系統学部の入学志願者数の推移を検証する。まず、国際教養学部は2020年度調査時点では、全国で私立大学13校のみが設置する学部であり先進性がある。志願者数は2019年度から2020年度にかけて減少しているものの2016年度からは増加傾向にある。また、入学定員充足率については2016年度と2020年度を比較すると8.78%上昇している。

さらに、本学部は経済経営学専攻とグローバルスタディーズ専攻の2つの専攻を持つことから、専攻ごとに同系統学部の入学志願動向を検証する。

経済経営学専攻については、経済学部、経営学部と同系統であるため、社会科学系の推移を検証する。2016年度と2020年度を比較すると学部数として10学部、入学定員では約5,000

人増加している。一方で 2019 年度と 2020 年度の志願者を比較すると減少してはいるが、2020 年度の入学定員充足率では 103.65%となっており、一定数の学生が確保できるといえる。また、経済学部、経営学部についても 2016 年度と 2020 年度を比較すると志願者倍率は増加している。

グローバルスタディーズ専攻については、Global Relations、Global Communication Studies、Global Cultural Studies の3つの分野を専攻の柱としており、国際関係学部、国際文化学部等と親和性が高いため、人文科学系の推移を検証する。2016 年度と 2020 年を比較すると学部数として5学部増加した一方、入学定員は約 1,500 人減少しているが、2020 年度の入学定員充足率では、102.88%となっており一定数の学生が確保できるといえる。志願倍率をみると 2016 年度に 7.54 倍であったものが、2020 年度には 8.94 倍と増加している。

また、Global Cultural Studies に近い国際文化学部については、2016 年度から2校増えたが、2020 年度時点で全国の私立大学に 10 校しか設置されていない。入学定員、志願者数、入学者数ともに増加しており、入学定員充足率も 102.71%と前年度より 3.54%増加している。

これらから、受験生の動向は以下のとおりと予想される。経済学、経営学を学びたいという社会科学系の志願者数は年度によってばらつきはあるものの志願者数は多い。また、グローバルスタディーズ専攻の3つの分野に近い人文科学系についても、志願倍率は高くなっており一定数の志願者が見込まれると予想される。また、本学部と同系統の学部は、設置している大学が少ないという点や、志願者数が増加している点から、今後も十分に需要があると考えられる【資料 6】。

4) 既設学部の入学志願動向

本学の既設学部は経済学部、人文学部、社会学部の3学部であるが、いずれの学部においても入学定員を十分に上回る志願者数を確保している。また、本学部は既設学部の入学定員を減少させて設けることから、従来通り安定した学生の確保が見込まれると考える。既設学部の過去5年間(2016～2020 年度入試)の志願者数等の推移は、【資料 7】のとおりである。

〔経済学部〕

経済学部は、経済学科、経営学科、金融学科の3学科から構成されているが、各学科の過去5年間の志願者倍率の平均は、経済学科 19.23 倍、経営学科 19.73 倍、金融学科 20.75 倍となっている【資料 7-1】。

〔人文学部〕

人文学部は、英語英米文化学科、ヨーロッパ文化学科、日本・東アジア文化学科の3学科か

ら構成されているが、各学科の過去5年間の志願者倍率の平均は、英語英米文化学科 13.09 倍、ヨーロッパ文化学科 15.50 倍、日本・東アジア文化学科 14.55 倍となっている【資料 7-2】。

〔社会学部〕

社会学部は、社会学科、メディア社会学科の2学科から構成されているが、各学科の過去5年間の志願者倍率の平均は、社会学科 20.17 倍、メディア社会学科 22.66 倍となっている【資料 7-3】。

全学部において志願者倍率は、2020 年度の「私立大学・短期大学等入学志願動向」に掲載されている当該学部の学問系統の志願者倍率よりも上回っている。なお、2018 年度以降、既設学部の入学定員充足率が低くなっている理由は、2018 年度に全学アドミッション会議を設置し、定員管理の厳格化をよりいっそう強化した結果であり、志願者倍率等が示すとおり学生募集は安定的に行われている。

5) 高校生への進学意向調査結果

本学部を設置するにあたり、学生確保の見通しを客観的データで示すため、本学部の開設年度に入学生となる高校2年生(本学が学生募集を実施する 2021 年度に高校3年生になる)を対象にアンケート調査を実施し、受験意向や入学意向を尋ねた。

今回の調査は、本学の主な学生募集地域である首都圏を中心に全国の高校2年生 4,400 人に調査票を配付し、1,055 人から回答を得た(有効回収率 24.0%)。回答者の 55.4%が東京に所在地がある高校に通っている生徒であった。調査にあたっては、入学定員、養成する人材像、学部・学科、各専攻の特色、学びの流れ、想定される進路、学生納付金等を明示したパンフレットを合わせて配付した。その結果、「受験したいと思う」と回答した生徒は 1,055 人中 460 人(43.6%)、さらに「入学したいと思う」と回答した生徒は 416 人(39.4%)であった。本学部の入学定員は 100 人であることから、入学定員を4倍以上も上回っており、学生確保の見通しは十分に立っているといえる。

また、本学部は1学科2専攻で構成しており、入学者選抜については専攻ごとに実施する予定であることから、それぞれの専攻に関する設問を設けた。専攻ごとの結果は「経済経営学専攻に入学したいと思う」と回答した生徒は 217 人(20.6%)、「グローバルスタディーズ専攻に入学したいと思う」と回答した生徒は 199 人(18.9%)であった。これは各専攻とも学科の入学定員 100 人を大きく上回っている。また、本学部が行う入学者選抜において、経済経営学専攻 55 人、グローバルスタディーズ専攻 45 人を募集人員とする予定であり、それぞれについても募集人員を大きく上回っているため、専攻ごとに募集人員を設けても学生確保の見通しは十分であると

いえる。

同調査結果から、本学部の最も魅力的な点として、「日本人と外国人の教授陣が英語で授業や正課外の指導を行うなかで、実践的で高度な英語運用能力が身につく」、「専門の学びに加え、学部・専攻を超えた多様な科目履修により、世界の多様な文明と社会に関する幅広い知識、深い思考力と判断力、知的創造力、問題発見・問題解決の力が身につく」、「英語で行う授業の履修を可能とするため、英語力向上を目的とした集中的な英語学習カリキュラム」と回答している生徒がそれぞれ4割を超えていた。さらに各専攻の最も魅力的な点として、経済経営学専攻では「入学者全員に、本学の学位に加え、ロンドン大学の学位 Bachelor of Science in Economics and Management を取得することが可能となるパラレル・ディグリー・プログラム(PDP)を提供する」、グローバルスタディーズ専攻では「カリキュラムは英語で行う授業を中心に構成されており、それらと留学だけで卒業することも可能」という点が挙げられている。

以上から、安定的な学生確保の見通しが十分に立っていると判断することができる。

〔入学意向調査概要〕

武蔵大学「国際教養学部 国際教養学科」設置に関するニーズ調査結果報告書(高校生対象調査)【資料8、資料9】

調査対象	高校2年生
調査方法	郵送調査
回収状況	4,400人に依頼し、1,055人から回答(有効回収率24.0%)
調査時期	2020年6月13日(土)～2020年7月27日(月)
調査実施機関	株式会社 進研アド
調査項目	・性別 ・高校種別 ・高校所在地 ・所属クラス ・高校卒業後の希望進路 ・興味のある学問系統 ・武蔵大学「国際教養学部 国際教養学科」の特色に対する魅力度 ・武蔵大学「国際教養学部 国際教養学科」への受験意向 ・武蔵大学「国際教養学部 国際教養学科」への入学意向

③学生納付金の設定の考え方

本学部の学生納付金は、入学金 240,000 円、授業料 970,000 円、維持費 300,000 円とし、初年度学生納付金額合計 1,510,000 円、4年間の学生納付金額合計 5,320,000 円となる(委託徴収諸会費除く)。

既設学部と比較すると、授業料に関しては 200,000 円高く設定している。これは、よりいっそうの少人数教育の実施と英語で授業が可能な教員の確保のためである。金額の設定は、財務的な観点と他大学の同系統学部の状況を踏まえて行った。競合すると思われる他大学同系統学部の学生納付金と本学の学生納付金の比較は【資料 10-1】及び【資料 10-2】のとおりである。

本学部と同じ「国際教養学部」の平均と比較すると本学の学生納付金は約 18 万円程度高く設定されているが、本学の学生募集の中心となる関東圏に限定すると平均よりも 10 万円弱の差である【資料 10-1】。また、国際教養学部以外の学部で大学の所在地や本学の教育内容等と類似し競合すると想定される学部のうちデュアル・ディグリー・プログラムを設置する学部を除いた学部の平均と比較すると約3万円の差である【資料 10-2】。以上からこの学生納付金額の設定は妥当であるといえる。

また、経済経営学専攻の PDP の履修にあたっては、本学への学生納付金に加えて、ロンドン大学への登録料、授業料並びに試験費用として、初年度約 35 万円、4年間で約 145 万円相当が必要となる(£1=150 円で換算。為替レートにより金額の変動あり)。加えて、ロンドン大学の学年暦が9月に始まり5月の期末試験で終了することから、PDP を履修する場合は、卒業が半年間延長する可能性がある。このような学生向けに卒業延期制度を設け、学生納付金の減免を行っている。この制度を利用すると、4年半在学した PDP の履修生の卒業までの学生納付金とロンドン大学への支払いは合計で約 685 万円となる。この金額は他大学と比較すると高額となるが、同じように2つの大学から学士号を取得できるデュアル・ディグリー・プログラムを設置する大学では4年間の学生納付金額の合計が約 1,000 万円弱であることを勘案すると十分に競争力を持つといえる。また、PDP 履修生のうち成績が優秀な学生向けに対しては、奨学金を設ける予定である。

(参考)

<https://london.ac.uk/courses/international-foundation-programme#fees-943>

<https://london.ac.uk/courses/bsc-economics-and-management#fees>

(2) 学生確保に向けた具体的な取組状況

① 学生募集活動

学生確保に向け、本学の志願者の多くを占める首都圏及び関東圏を中心に高校生、保護者、高校教員等を対象に以下のような取り組みを行っている。また、取り組みにあたっては入試課及び広報室を中心に教職協働で全学的に取り組んでいる。

また、従来から「ゼミナール」、「少人数教育」を本学の特色としてきたが、本学部の設置に伴い「グローバル」、「国際教養」、「海外留学」といった特色を加え、新たな層にアプローチする。さらに、英語版の大学公式ホームページを拡充し、日本国内だけでなく留学生等の獲得も視野に学生募集を行う。

1) オープンキャンパスの開催

高校生及び保護者を主たる対象としたオープンキャンパスを年4回開催している。本学の在学生・教職員との個別相談、学部・学科紹介、模擬授業、キャンパスツアー等を通じて教育内容や留学、奨学金といった各種制度について理解を深め、さらに本学の雰囲気を感じてもらう機会となっている。11月には一般入試対策講座を開催し、本学を志望している学生向けに入試対策講座及び個別相談を実施している。2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大により、オンライン開催とした。2021年度についても感染状況を踏まえ、対面又はオンラインで開催する予定である。

2) 高校教員向け大学説明会

本学に志願者のあった高校や首都圏の高校を中心に高校教員向け大学説明会を年1回開催している。本説明会では、本学の近況、教育内容、各種制度、入学者選抜に関する情報の提供や個別相談を実施し、高校教員にとって有益となる情報を提供している。例年100名以上の高校教員が参加している。2020年度については、新型コロナウイルスの感染拡大により中止としたが、2021年度は感染状況を踏まえ、対面及びオンラインで開催する予定である。特に本学部は新設学部であるため、高校教員への理解・認知度を高めるため丁寧に詳細な情報を提供する予定である。

3) 進路説明会・進学相談会への参加

高校からの依頼に基づき、本学の教職員が高校を訪問して学問系統に関する説明や模擬授業を実施する進路説明会と業者が開催する学外の進学相談会に参加している。毎年度、高校で実施する進路説明会や模擬授業に300以上参加している。また、学外の進学相談会についても関東圏を中心に全国各地の相談会に参加し、本学への興味・関心を喚起する機会とし

ている。2021年度は、2020年度に引き続き、対面とオンラインの両方に対応する予定である。

4) 重点校訪問

毎年度、志願者が多い高校を中心に本学の職員がアドバイザーとして高校を訪問し、大学の近況、入試概要の説明等に加え、本学に入学した卒業生の近況報告などを進路指導教諭等に対して行い、高校との連携を深めている。

5) 大学案内や学部リーフレットの製作

社会に広く情報発信するための大学案内「MUSASHI MAGAZINE」に加え、本学部の教育内容や教育方法、養成する人材像等、本学部の特色をまとめたリーフレットを製作し、高校生や保護者、高校教員等を中心に配付する。

6) 各種媒体への掲載

受験生向けの各種進学情報誌に加え、保護者や広く社会一般に本学部の特色を伝えるため、一般誌や新聞等へ情報を掲載している。既に『週刊東洋経済』(2020年12月1日号)や『朝日新聞』(2020年11月7日)に本学部の紹介を掲出しており、今後も同様に情報発信する。

7) ホームページ及び SNS の活用

本学公式ホームページ内に本学部のページを開設し、受験生や保護者向けの広報活動を行っている。また、Facebook や LinkedIn 等の SNS を活用した定期的な情報発信を継続して行う。

② 入学者選抜

本学部が定めるアドミッション・ポリシーに基づき、求める学生像を基礎的な知識・技能、思考力・判断力・表現力・発信力や高度な英語運用能力を有し、主体性と協働性を備えた学生と定め、この目的を達成するために多様な入学者選抜を取り入れる。

主に、筆記試験を中心として選抜する一般選抜(一般方式、大学入学共通テスト方式)及び筆記試験に加え、小論文や面接・プレゼンテーションにより論理的思考力・表現力・発信力や主体性・協働性・対話力等に重点をおいて評価する総合型選抜(AO 入学試験)並びに学校推薦型選抜(指定校制推薦入学)、外国高等学校卒業生・帰国生徒対象入学試験、社会人入学試験及び外国人学生特別入学試験を設け、志願者の学修意欲や積極性等を多面的に評価する。このように多様な入学者選抜方式を設けることによって、各自の個性を尊重し本学部のポリシーに合致した学生を確保する。

本学では入学者選抜方式について、前年度の入試結果や在学生の成績、就職状況等を参

考に入試形態別の志願者数や指定校制推薦入学における評定平均値、試験科目等の見直しを各学部で行い、学長の下に設置されている全学アドミッション会議を経て、大学協議会にて審議し、学長が決定している。このような点検・評価を通じて、学生確保に関する改善を図っている。

2. 人材需要の動向等社会の要請

(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(概要)

本学は、建学の三理想に基づき、各学部の専門教育と全学共通の教養教育を通じて「自立」「対話」「実践」を教育の基本目標とした人材養成を行っている。より具体的には、「自ら調べ自ら考え、他者を尊重しながら心を開いて対話を行い、世界に思いをめぐらしながら身近な場所で実践し、また世界にはばたいて文化的な交流や実務的な共同作業を担う自立した活力あるグローバル市民を育てること」を意味している。本学部では、全学の教育研究上の目的を踏まえ、以下の教育研究上の目的(人材養成の目的)を定めている、

本学部は、大学の教育の基本目標に基づき、英語を用いたリベラルアーツ&サイエンス教育を通じて、幅広い教養と深い専門知識に基づくグローバル化した社会への理解とともに、高度な英語コミュニケーション力を涵養することを教育研究上の目的とし、他者尊重の精神に基づく協働力を備え、イノベーションの推進や危機の克服の先頭に立つことのできるグローバルリーダーの養成を人材養成の目的とする。

さらに、学部の教育研究上の目的(人材養成の目的)のもとに各専攻の専門性に基づいた目的を定めている。

[経済経営学専攻]

経済経営学専攻は、経済学、経営学の深い専門知識に加え、数学や統計学の知識、批判的思考力(クリティカル・シンキング)や論理的に考える能力を身につけ、さらにゼミナールを通じてプレゼンテーションやディスカッションの技術や協働する力を養い、海外体験を重ねて、グローバル化した社会、ビジネス及び学術研究の世界でリーダーシップを発揮しうる人材の養成を目的とする。

[グローバルスタディーズ専攻]

グローバルスタディーズ専攻は、Global Relations、Global Communication Studies、Global Cultural Studies の深い専門知識と異文化理解力、そして批判的思考力(クリティカル・シンキング)や高度な英語運用能力を身につけ、それらを用いてグローバル化した社会で生じている

諸問題を他者と協働しながら解決できる人材の養成を目的とする。

(2) 上記(1)が社会的・地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

本学部が養成する人材の社会的必要性について、①各種団体、機関等が発表しているデータや資料に基づく社会的な需要、②本学の過年度就職実績や本学が独自に行った企業への採用意向調査結果等に基づく本学に対する社会からの需要の2つの観点から検証する。

① 社会的な需要について

グローバル化した社会において、英語運用能力や異文化理解力が必要不可欠となっているが、日本は先進的アジア諸国と比較して劣っているとされている。例えば、2019年に国際教育事業を行っているイー・エフ・エデュケーション・ファースト・ジャパン株式会社が実施している英語実力テスト又はEF 英語標準テスト(EF SET)を受けた220万人を超える受験者のテストデータを基にした2020年度版「EF EPI 英語能力指数」結果では、調査を行った世界100か国のうち、主要なアジア諸国の結果はシンガポール10位、韓国32位、香港33位となっており、日本は55位にランキングされている【資料11】。本学部では、人材養成の目的に掲げているように幅広い教養と深い専門知識に基づくグローバル化した社会への理解とともに、高度な英語コミュニケーション力を涵養し、イノベーションの推進や危機の克服の先頭に立つことのできるグローバルリーダーの養成を目的としており、今後、日本を牽引するリーダーとなりうる人材として需要が高くなると想定される。

また、2018年12月4日に一般社団法人日本経済団体連合会から発表された「今後の採用と大学教育に関する提案」において、「学生に求める知識・能力」として「リベラルアーツ、語学(英語)力/情報リテラシー」、「社会人の資質」として、「創造性、チャレンジ精神、行動力、責任感、論理的思考能力、コミュニケーション能力、忍耐力、協調性等」、その他に「地球規模課題や世界情勢への関心、学外活動や社会経験」が挙げられており、本学部が養成する人材はこれらの需要に応えるものといえる【資料12】。

② 既設学部の過年度就職実績及び企業への採用意向調査結果について

1) 過年度就職実績

本学部は、既設の経済学部及び人文学部を基礎となる学部としているため、それぞれの就職率(就職者数/就職希望者数)の推移から検証する。

大学全体の過去5年間(2015~2019年度)の就職率の推移を見ると毎年95%以上の高水準となっており、2015年度から毎年度、上昇傾向にある。また、基礎となる学部の就職率をみると大学全体同様、毎年度90%以上の高水準を維持している【資料13】。

さらに、業種別の就職状況をみると各学部・学科の人材養成の目的によって特色があるものの、あらゆる業種に就職していることがわかる【資料 14】。

また、2019 年度に修了した第1期 PDP 履修生及び 2020 年度に修了した第2期生は、ポستنキヤリアフォーラム等、グローバル人材の採用市場の場でも高く評価され、トレンドマイクロ株式会社、イブソス株式会社、インフォシス リミテッド、日本ビジネスシステムズ株式会社等、外資系企業を中心に内定を得ている。

なお、2020 年度に修了した GSC の第1期生は、北海道テレビ放送株式会社、株式会社星野リゾート・マネジメント、株式会社 JTB 等から内定を得ている。

このように基礎となる学部の就職状況からみても本学部に対する企業からの需要があるといえる。

2) 企業への採用意向調査

本調査は、2020 年1月～3月に本学既設学部からの採用実績がある企業を中心に本学部の卒業生の採用が期待できる企業・団体 228 件を対象に採用意向調査を行った。調査にあたっては、調査票と本学の教育内容の特色や養成する人材像等、本学部の基本情報を記載したリーフレットを郵送または学内企業説明会開催時に人事担当者へ配付し本学部の教育内容等を理解いただいたうえで回答を得た。回答件数は 208 件(回答率 91.2%)であり、すべての設問において高評価を得た。

教育内容の特色について本学部の3つの特色である、高度な英語力、文理横断的な知識、俯瞰的な視点、批判的思考力、発信力、傾聴力、協働の精神について「非常に評価できる」「ある程度評価できる」の割合が全て8割を超えている。特に、「ゼミナールで学ぶことによって意見を発信する力、傾聴力、協働の精神」については「非常に評価できる」70.7%となっており、本学の開学以来のゼミナール教育が評価されていることが分かる。さらに、8割以上が本学部で身につく各能力について「必要だと思う」「ある程度必要だと思う」と回答している。

さらに、専攻ごとにみると経済経営学専攻の特色のうち「経済学や経営学を体系的に学ぶと共に、統計や情報処理能力を身につける」に対して「非常に評価できる」62.5%、「ある程度評価できる」29.3%、全体で 91.8%の評価を得ている。

グローバルスタディーズ専攻では「海外での学習機会を設け、異文化の中での学習を通じコミュニケーション力、主体的行動力、専門知識を身につける」に対して「非常に評価できる」64.9%、「ある程度評価できる」25.5%、全体で 90.4%の評価を得ている。

さらに、各専攻で養成する人材像の社会的ニーズに対して「ニーズは極めて高い」「ニーズはある程度高い」と肯定的に回答した件数は、経済経営学専攻で 201 件(96.6%)、グローバルスタディーズ専攻で 197 件(94.7%)であった。

また、各専攻を卒業する学生を採用したいかとの設問に対して経済経営学専攻では「採用したい」117件(56.3%)、「採用を検討したい」82件(39.4%)、グローバルスタディーズ専攻では「採用したい」106件(51.0%)、「採用を検討したい」90件(43.3%)であった。さらに、経済経営学専攻の卒業生を「採用したい」、「採用を検討したい」と回答した199件について、採用可能な人数は合計で260名、グローバルスタディーズ専攻では196件について265名の採用意向があった。

以上のことから、本学部の教育内容や養成する人材像は社会的需要が高く、本学部の教育を受けた卒業生の採用意向も十分にあるといえる。

〔採用意向調査概要〕

武蔵大学「国際教養学部国際教養学科(仮称)設置構想に係る企業アンケート調査報告書」

【資料9、資料15】

調査対象	過去に本学の卒業生を採用した実績がある企業・団体や本学に来訪した企業・団体のうち本学部卒業生の採用が期待できる企業・団体
調査方法	郵送調査及び手渡し配付
回収状況	228件に依頼し、208件から回答(有効回収率91.2%)
調査時期	2020年1月～2020年3月
調査実施機関	株式会社高等教育総合研究所
調査項目	<p>主な項目は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業及び団体の基本情報 ・大学新卒者を採用する際に重視する項目 (能力・体験等、求める英語能力) ・本学部、専攻の特色に対する評価 ・本学部の卒業生の採用見込み ・自由記述

以上

資 料 目 次

- 資料 1: 武蔵大学 出身高校の所在地別志願者数・合格者数(2016～2020 年度)
- 資料 2: 東京都の人口予測
- 資料 3: 18 歳人口の推移及び大学進学者数の推計
- 資料 4: 全国私立大学地域別の入学志願動向(2015～2020 年度)
- 資料 5: 南関東の 18 歳人口予測及び地元残留率の推移
株式会社リクルートマーケティングパートナーズ 「リクルート進学総研マーケットリ
ポート vol.74 (南関東版)2020 年 1 月号」
- 資料 6: 全国私立大学主な学部別志願者・入学者動向
- 資料 7: 武蔵大学 既設学部の入学志願動向(2016～2020 年度)
- 資料 8: 武蔵大学「国際教養学部 国際教養学科」設置に関するニーズ調査結果報告書【高
校生対象調査】
- 資料 9: 国際教養学部紹介リーフレット
- 資料 10: 武蔵大学既設学部及び同系統学部の学生納付金一覧(抜粋)
- 資料 11: 2020 年度版「EF EPI 英語能力指数」結果
- 資料 12: 一般社団法人 日本経済団体連合会「今後の採用と大学教育に関する提案」(抜粋)
- 資料 13: 武蔵大学 既設学部の就職状況(2015～2019 年度)
- 資料 14: 武蔵大学 既設学部の業種別就職状況(2019 年度)
- 資料 15: 武蔵大学「国際教養学部 国際教養学科(仮称)」設置構想に係る企業アンケート
調査報告書

資料1：武蔵大学 出身高校の所在地別志願者数・合格者数

(単位：人)

		2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	
東京都	志願者	5,960	7,382	8,099	8,169	8,357	
	合格者	1,662	1,702	1,368	1,412	1,609	
埼玉県	志願者	4,041	4,547	4,555	4,284	3,991	
	合格者	1,188	1,044	765	845	787	
千葉県	志願者	1,445	2,094	1,917	2,257	2,203	
	合格者	416	523	358	443	501	
神奈川県	志願者	1,044	1,256	1,450	1,854	1,726	
	合格者	284	251	251	303	274	
茨城県	志願者	498	500	476	570	493	
	合格者	114	128	81	94	98	
群馬県	志願者	271	274	279	209	343	
	合格者	87	73	47	39	58	
栃木県	志願者	220	214	299	240	272	
	合格者	63	59	67	50	54	
その他	志願者	1,296	1,496	1,562	1,820	1,929	
	合格者	378	338	256	274	357	
合計	志願者	14,775	17,763	18,637	19,403	19,314	
	合格者	4,192	4,118	3,193	3,460	3,738	
全体に占める割合	東京都	志願者	40.34%	41.56%	43.46%	42.10%	43.27%
	(%)	合格者	39.65%	41.33%	42.84%	40.81%	43.04%
	首都圏※1	志願者	84.53%	86.02%	85.96%	85.37%	84.28%
	(%)	合格者	84.69%	85.48%	85.88%	86.79%	84.83%
	関東※2	志願者	91.23%	91.58%	91.62%	90.62%	90.01%
	(%)	合格者	90.98%	91.79%	91.98%	92.08%	90.45%

※1 東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県

※2 東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県、茨城県、群馬県、栃木県

資料 2 : 東京都の人口予測

2015年(平成27年)国勢調査結果を基準とし、常住地に基づく将来の総人口について、区市町村ごとに男女別に予測

1. 予測期間

2020年、2025年、2030年、2035年、2040年の5時点を予測

2. 予測対象

東京都及び区市町村ごとの男女別人口

3. 予測方法

東京都の総人口については、多地域モデル(ロジャース・モデル)を用いて予測を行った。同モデルは、従来のコーホート分析の考え方を地域間人口移動の次元にまで拡張したもので、コーホート要因法の一つである。

区市町村ごとの人口については、多地域モデルで予測した東京都の総人口に、区市町村ごとの人口割合を乗じて予測した。

【東京都総人口推移】

年	人数	増減人数 (対2015年)	増減率 (対2015年)
2015年	13,515,271	-	-
2020年	13,849,942	334,671	2.48%
2025年	13,979,158	463,887	3.43%
2030年	13,938,408	423,137	3.13%
2035年	13,754,388	239,117	1.77%
2040年	13,458,482	-56,789	-0.42%

出典:東京都総務局統計部 東京都の統計「東京都区市町村別人口の予測」統計資料に基づき作成

資料 3 : 18 歳人口の推移及び大学進学者数の推計

(資料:3-1) 地域ブロック別 18 歳人口の推移 (2016 年以降の推計値)

	2015 年 (A)	2033 年 (B)	増減 (C=B-A)	増減比 (C/A)
北海道	48,922	36,514	-12,408	-25.4%
東北	89,965	64,312	-25,653	-28.5%
北関東	68,342	52,784	-15,558	-22.8%
東京圏	305,067	282,146	-22,921	-7.5%
甲信越静	88,860	67,761	-21,099	-23.7%
北陸	29,886	22,899	-6,987	-23.4%
東海	111,749	93,616	-18,133	-16.2%
近畿	199,788	159,733	-40,055	-20.0%
中国	72,485	60,029	-12,456	-17.2%
四国	37,394	28,901	-8,493	-22.7%
九州	147,519	131,099	-16,420	-11.1%
合計	1,199,977	999,794	-200,183	-16.7%

(資料:3-2)

【試算①】2033 年までの各年の大学進学率が、各県で 2015 年の大学進学率と同率であると仮定

	2015 年 (A)	2033 年 (B)	増減 (C=B-A)	増減比 (C/A)
北海道	20,339	15,180	-5,159	-25.4%
東北	35,415	25,544	-9,871	-27.9%
北関東	33,367	25,796	-7,571	-22.7%
東京圏	182,434	173,153	-9,281	-5.1%
甲信越静	41,028	31,356	-9,672	-23.6%
北陸	13,936	10,690	-3,246	-23.3%
東海	55,562	46,752	-8,810	-15.9%
近畿	110,340	88,287	-22,053	-20.0%
中国	33,395	27,733	-5,662	-17.0%
四国	16,613	12,872	-3,741	-22.5%
九州	60,047	53,657	-6,390	-10.6%
合計	602,476	511,020	-91,456	-15.2%

(資料:3-3)

【試算②】2033年の大学進学率が、各県で2015年の大学進学希望率(志願率)と同率と仮定

	2015年 (A)	2033年 (B)	増減 (C=B-A)	増減比 (C/A)
北海道	20,339	15,905	-4,434	-21.8%
東北	35,415	27,723	-7,692	-21.7%
北関東	33,367	26,908	-6,459	-19.4%
東京圏	182,434	194,290	11,856	6.5%
甲信越静	41,028	33,866	-7,162	-17.5%
北陸	13,936	11,759	-2,177	-15.6%
東海	55,562	50,792	-4,770	-8.6%
近畿	110,340	99,092	-11,248	-10.2%
中国	33,395	30,456	-2,939	-8.8%
四国	16,613	14,231	-2,382	-14.3%
九州	60,047	61,469	1,422	2.4%
合計	602,476	566,491	-35,985	-6.0%

(資料:3-4)

【試算③】2033年までの各県における大学進学者が、2015年の数と同数であると仮定

	2015年	2033年
北海道	41.6%	55.7%
東北	39.7%	55.1%
北関東	48.9%	63.2%
東京圏	61.4%	64.7%
甲信越静	46.3%	60.5%
北陸	46.7%	60.9%
東海	49.9%	59.4%
近畿	55.3%	69.1%
中国	46.2%	55.6%
四国	44.5%	57.5%
九州	40.9%	45.8%

文部科学省「学校基本統計」及び厚生労働省
「人口動態調査」より国立教育政策研究所にて推計
(外国の学校卒、高卒認定等の進学者を除く)

出典:中央教育審議会:将来構想部会(第9期)(第3回)2017年7月28日開催

参考資料1 高等教育の将来構想に関する参考資料2/2に基づき作成

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/042/siryo/_icsFiles/afiedfile/2017/08/01/1388715_09.pdf

資料4：全国私立大学地域別の入学志願動向(2015～2020年度)

地域	項目	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
東京都	集計学校数	113	113	113	114	115	118
	入学定員 A	168,390	170,553	175,024	179,549	180,659	181,781
	志願者 B	1,632,817	1,680,215	1,803,679	1,941,659	2,001,091	1,899,211
	受験者 C	1,552,758	1,603,723	1,723,542	1,855,286	1,902,885	1,799,230
	合格者 D	492,515	492,001	481,265	462,130	469,256	504,652
	入学者 E	185,187	185,914	187,859	186,116	184,115	183,897
	志願倍率 B/A	9.70	9.85	10.31	10.81	11.08	10.45
	合格率 D/C	31.72%	30.68%	27.92%	24.91%	24.66%	28.05%
	歩留率 E/D	37.60%	37.79%	39.03%	40.27%	39.24%	36.44%
入学定員充足率 E/A	109.98%	109.01%	107.33%	103.66%	101.91%	101.16%	

地域	項目	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
全国	集計学校数	579	577	581	582	587	593
	入学定員 A	463,697	467,525	477,662	484,986	487,065	491,012
	志願者 B	3,513,499	3,629,277	3,882,572	4,158,495	4,424,451	4,368,215
	受験者 C	3,376,430	3,489,798	3,732,227	3,999,532	4,245,788	4,174,803
	合格者 D	1,241,262	1,245,863	1,238,559	1,211,499	1,250,195	1,348,219
	入学者 E	487,064	488,209	499,677	497,773	500,085	503,830
	志願倍率 B/A	7.58	7.76	8.13	8.57	9.08	8.90
	合格率 D/C	36.76%	35.70%	33.19%	30.29%	29.45%	32.29%
	歩留率 E/D	39.24%	39.19%	40.34%	41.09%	40.00%	37.37%
	入学定員充足率 E/A	105.04%	104.42%	104.61%	102.64%	102.67%	102.61%

〔地域別入学定員充足状況〕

	2015年度 入学定員充足率	2016年度 入学定員充足率	2017年度 入学定員充足率	2018年度 入学定員充足率	2019年度 入学定員充足率	2020年度 入学定員充足率	平均
北海道	96.70%	96.98%	98.65%	98.74%	100.81%	106.05%	99.05%
東北(宮城を除く)	84.96%	88.60%	93.51%	93.25%	93.09%	95.70%	90.14%
宮城	101.75%	101.75%	104.43%	103.98%	105.46%	104.51%	103.62%
関東(埼玉、千葉、東京、神奈川を除く)	101.42%	98.08%	102.32%	104.45%	109.10%	109.21%	103.16%
埼玉	104.60%	102.01%	103.31%	105.25%	108.01%	107.63%	104.96%
千葉	98.26%	99.35%	101.62%	103.21%	107.49%	105.74%	101.65%
東京	109.98%	109.01%	107.33%	103.66%	101.91%	101.16%	106.08%
神奈川	104.89%	104.05%	105.46%	104.10%	101.48%	103.12%	103.98%
甲信越	100.97%	97.93%	97.17%	97.25%	102.34%	103.13%	98.86%
北陸	102.22%	100.57%	102.16%	103.28%	105.94%	106.93%	103.39%
東海(愛知を除く)	96.13%	95.11%	98.65%	102.02%	106.59%	105.69%	100.00%
愛知	106.17%	104.86%	105.60%	103.87%	103.53%	103.61%	104.45%
近畿(京都、大阪、兵庫を除く)	97.68%	98.66%	104.36%	110.65%	108.20%	105.70%	102.41%
京都	106.34%	105.39%	103.33%	97.74%	99.24%	98.86%	102.31%
大阪	107.68%	106.47%	107.10%	104.51%	103.61%	105.60%	105.73%
兵庫	99.70%	101.18%	104.11%	101.75%	102.30%	101.72%	101.37%
中国(広島を除く)	99.13%	96.53%	94.39%	93.90%	98.02%	97.25%	96.18%
広島	94.32%	95.09%	96.64%	99.22%	98.80%	100.29%	96.69%
四国	88.62%	88.47%	91.89%	88.64%	91.44%	91.37%	90.13%
九州(福岡を除く)	95.21%	96.67%	95.95%	99.31%	103.76%	101.91%	98.11%
福岡	101.19%	103.71%	107.09%	105.67%	106.31%	106.10%	104.41%
全国計	105.04%	104.42%	104.61%	102.64%	102.67%	102.61%	103.68%

出典：『私立大学・短期大学等入学志願動向』平成28(2016)、平成30(2018)、令和2(2020)年度版

「2.地域別の動向(大学・学校別)」(日本私立学校振興・共済事業団)に基づき作成

① 書類等の題名

「リクルート進学総研マーケットレポート vol.74 (南関東版)2020 年 1 月号」

② 出典

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ

http://souken.shingakunet.com/research/202001_minamikantou_souken_report.pdf

③ 引用範囲等

2 ページ「18 歳人口予測(全体:南関東:2019～2031 年)」をもとに本学で並び順を加工

資料6：全国私立大学主な学部別志願者数・入学者動向

区分	項目	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	増減(2020-2016)
国際教養学部	集計学部数	13	15	14	14	13	0
	入学定員 A	2,381	2,609	2,499	2,574	2,464	83
	志願者 B	15,019	17,328	17,659	21,591	19,500	4,481
	入学者 C	2,344	2,612	2,623	2,580	2,642	298
	志願者倍率 B/A	6.31	6.64	7.07	8.39	7.91	1.61
	入学定員充足率 C/A	98.45%	100.11%	104.96%	100.23%	107.22%	8.78%

区分	項目	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	増減(2020-2016)
社会科学系	集計学部数	510	515	513	515	520	10
	入学定員 A	165,013	168,025	169,202	169,074	170,182	5,169
	志願者 B	1,264,473	1,421,465	1,557,832	1,665,089	1,576,350	311,877
	入学者 C	174,262	179,664	176,801	175,004	176,402	2,140
	志願者倍率 B/A	7.66	8.46	9.21	9.85	9.26	1.60
	入学定員充足率 C/A	105.61%	106.93%	104.49%	103.51%	103.65%	-1.95%

区分	項目	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	増減(2020-2016)
経済学部	集計学部数	94	92	91	91	91	-3
	入学定員 A	39505	39406	40016	39,077	38,695	-810
	志願者 B	325308	374884	412231	422,743	391,925	66,617
	入学者 C	42338	43079	41707	39,805	39,733	-2,605
	志願者倍率 B/A	8.23	9.51	10.30	10.82	10.13	1.89
	入学定員充足率 C/A	107.17%	109.32%	104.23%	101.86%	102.68%	-4.49%

区分	項目	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	増減(2020-2016)
経営学部	集計学部数	82	82	80	85	88	6
	入学定員 A	25,244	25,796	25,431	26,870	27,861	2,617
	志願者 B	212,639	239,665	268,888	296,026	292,165	79,526
	入学者 C	26,598	27,888	27,037	27,889	29,329	2,731
	志願者倍率 B/A	8.42	9.29	10.57	11.02	10.49	2.06
	入学定員充足率 C/A	105.36%	108.11%	106.32%	103.79%	105.27%	-0.09%

区分	項目	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	増減(2020-2016)
人文科学系	集計学部数	240	240	245	243	245	5
	入学定員 A	69,619	69,921	69,738	68,494	68,104	-1,515
	志願者 B	525,219	556,791	616,582	644,739	608,854	83,635
	入学者 C	73,092	73,806	72,518	70,826	70,067	-3,025
	志願者倍率 B/A	7.54	7.96	8.84	9.41	8.94	1.40
	入学定員充足率 C/A	104.99%	105.56%	103.99%	103.40%	102.88%	-2.11%

区分	項目	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	増減(2020-2016)
国際文化学部	集計学部数	8	8	9	9	10	2
	入学定員 A	1,594	1,549	1,585	1,565	1,735	141
	志願者 B	8,734	10,910	11,215	12,862	13,868	5,134
	入学者 C	1,500	1,607	1,532	1,552	1,782	282
	志願者倍率 B/A	5.48	7.04	7.08	8.22	7.99	2.51
	入学定員充足率 C/A	94.10%	103.74%	96.66%	99.17%	102.71%	8.61%

区分	項目	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	増減(2020-2016)
国際関係学部	集計学部数	7	6	6	7	7	0
	入学定員 A	1,965	1,921	1,946	2,151	2,151	186
	志願者 B	11,073	11,772	12,755	15,587	15,415	4,342
	入学者 C	2,222	2,075	1,905	2,085	2,113	-109
	志願者倍率 B/A	5.64	6.13	6.55	7.25	7.17	1.53
	入学定員充足率 C/A	113.08%	108.02%	97.89%	96.93%	98.23%	-14.85%

(注)比率については小数点第3位を四捨五入。増減については端数処理の関係で一貫しない場合がある。

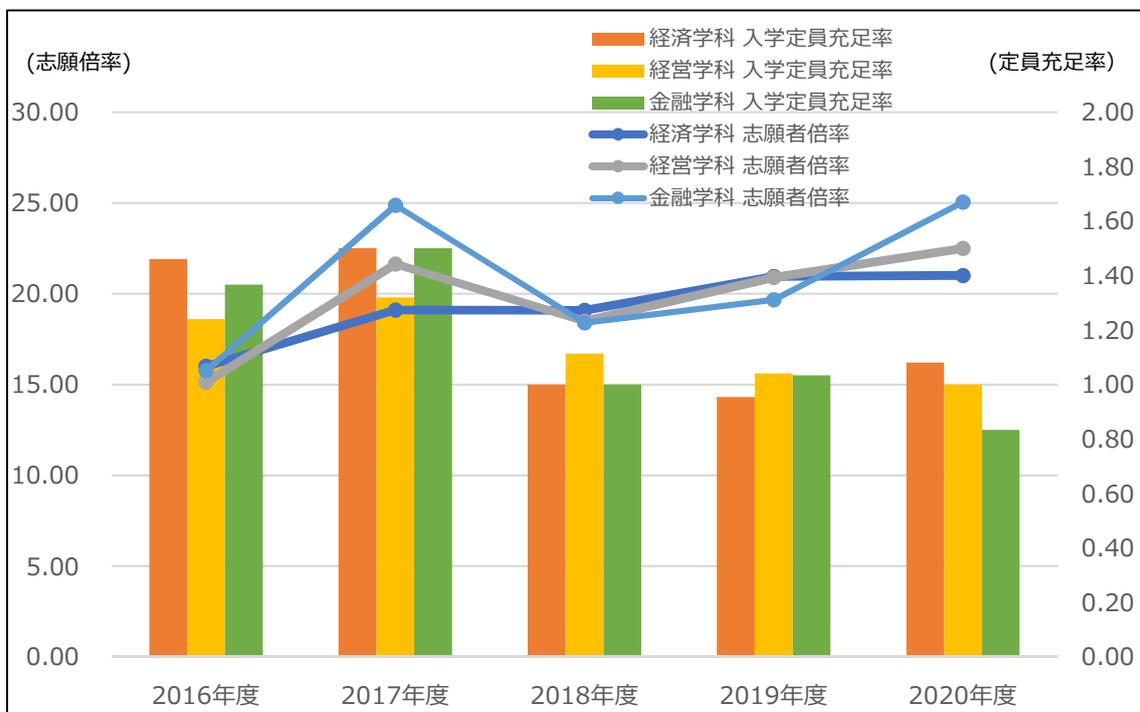
出典：『私立大学・短期大学等入学志願動向』平成28(2016)、平成30(2018)、令和2(2020)年度版

「5.主な学部別の志願者・入学者動向(大学)」に基づき作成

資料7：武蔵大学既設学部の入学志願動向

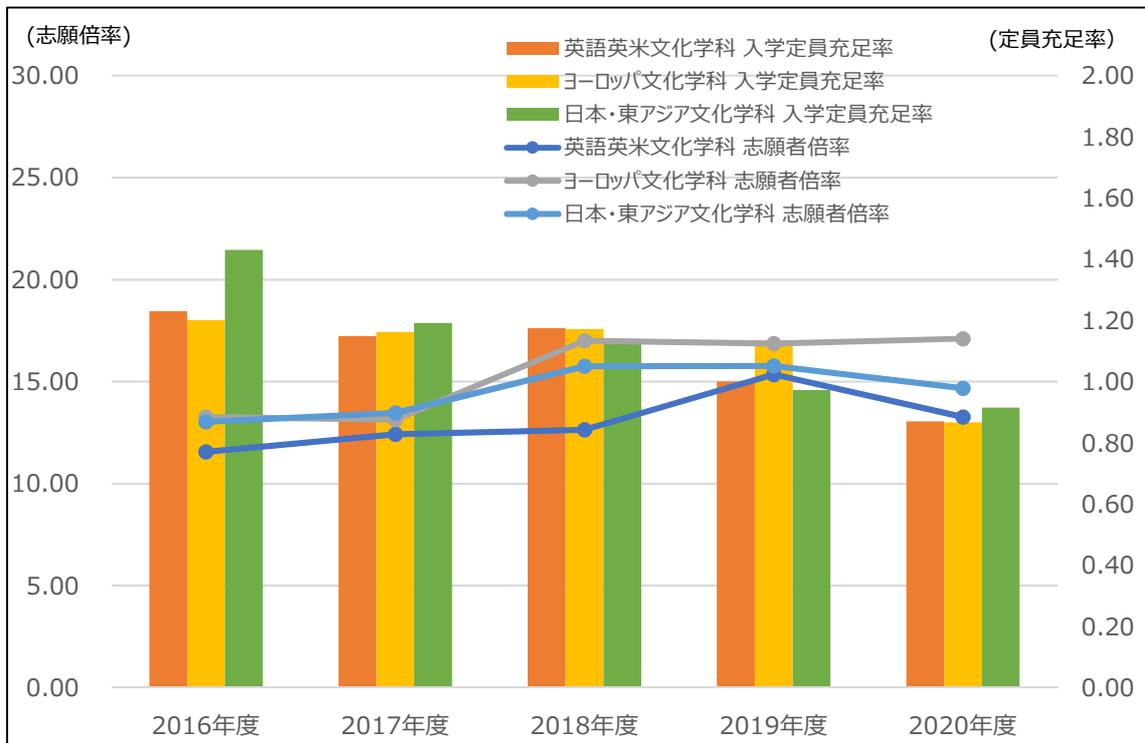
(資料:7-1) 経済学部

学部名	学科名	項目	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	過去5年平均
経済学部	経済学科	入学定員 A	150	150	150	150	150	150
		志願者数 B	2,401	2,865	2,864	3,143	3,152	2,885
		合格者数 C	715	663	464	565	599	601
		入学者数 D	219	225	150	143	162	180
		志願者倍率 B/A	16.01	19.10	19.09	20.95	21.01	19.23
		入学定員充足率 D/A	1.46	1.50	1.00	0.95	1.08	1.20
	経営学科	入学定員 A	150	150	150	150	150	150
		志願者数 B	2,271	3,247	2,774	3,134	3,374	2,960
		合格者数 C	629	602	422	504	535	538
		入学者数 D	186	198	167	156	150	171
		志願者倍率 B/A	15.14	21.65	18.49	20.89	22.49	19.73
		入学定員充足率 D/A	1.24	1.32	1.11	1.04	1.00	1.14
	金融学科	入学定員 A	120	120	120	120	120	120
		志願者数 B	1,892	2,985	2,208	2,361	3,006	2,490
		合格者数 C	639	672	351	507	553	544
		入学者数 D	164	180	120	124	100	138
		志願者倍率 B/A	15.77	24.88	18.40	19.68	25.05	20.75
		入学定員充足率 D/A	1.37	1.50	1.00	1.03	0.83	1.15
経済学部 合計	入学定員 A	420	420	420	420	420	420	
	志願者数 B	6,564	9,097	7,846	8,638	9,532	8,335	
	合格者数 C	1,983	1,937	1,237	1,576	1,687	1,684	
	入学者数 D	569	603	437	423	412	489	
	志願者倍率 B/A	15.63	21.66	18.68	20.57	22.70	19.85	
	入学定員充足率 D/A	1.35	1.44	1.04	1.01	0.98	1.16	



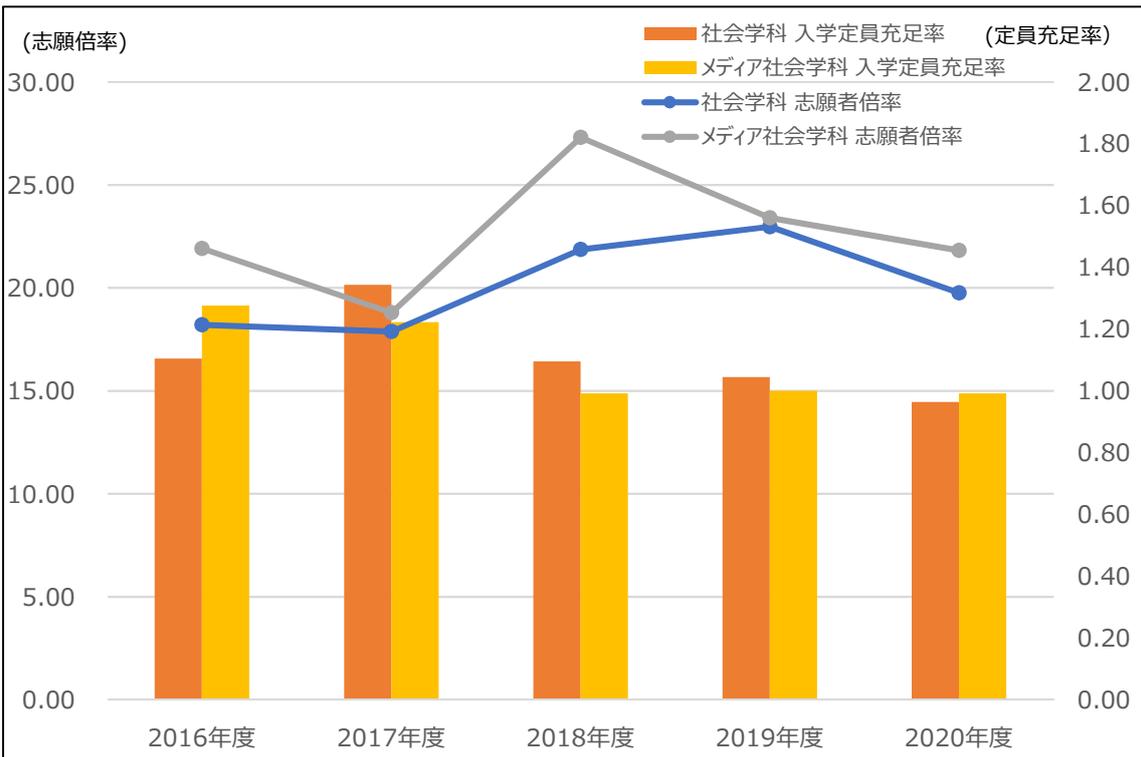
(資料:7-2) 人文学部

学部名	学科名	項目	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	過去5年平均
人文学部	英語英米文化学科	入学定員 A	100	115	115	115	115	112
		志願者数 B	1,156	1,428	1,453	1,765	1,526	1,466
		合格者数 C	376	352	341	361	342	354
		入学者数 D	123	132	135	115	100	121
		志願者倍率 B/A	11.56	12.42	12.63	15.35	13.27	13.09
		入学定員充足率 D/A	1.23	1.15	1.17	1.00	0.87	1.08
	ヨーロッパ文化学科	入学定員 A	100	105	105	105	105	104
		志願者数 B	1,327	1,380	1,785	1,770	1,796	1,612
		合格者数 C	405	395	402	415	383	400
		入学者数 D	120	122	123	119	91	115
		志願者倍率 B/A	13.27	13.14	17.00	16.86	17.10	15.50
		入学定員充足率 D/A	1.20	1.16	1.17	1.13	0.87	1.11
	日本・東アジア文化学科	入学定員 A	100	105	105	105	105	104
		志願者数 B	1,303	1,414	1,654	1,656	1,541	1,514
		合格者数 C	411	365	303	261	306	329
入学者数 D		143	125	119	102	96	117	
志願者倍率 B/A		13.03	13.47	15.75	15.77	14.68	14.55	
入学定員充足率 D/A		1.43	1.19	1.13	0.97	0.91	1.13	
人文学部 合計	入学定員 A	300	325	325	325	325	320	
	志願者数 B	3,786	4,222	4,892	5,191	4,863	4,591	
	合格者数 C	1,192	1,112	1,046	1,037	1,031	1,084	
	入学者数 D	386	379	377	336	287	353	
	志願者倍率 B/A	12.62	12.99	15.05	15.97	14.96	14.35	
	入学定員充足率 D/A	1.29	1.17	1.16	1.03	0.88	1.10	



(資料:7-3) 社会学部

学部名	学科名	項目	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	過去5年平均
社会学部	社会学科	入学定員 A	125	137	137	137	137	135
		志願者数 B	2,276	2,450	2,995	3,147	2,707	2,715
		合格者数 C	574	611	493	471	562	542
		入学者数 D	138	184	150	143	132	149
		志願者倍率 B/A	18.21	17.88	21.86	22.97	19.76	20.17
		入学定員充足率 D/A	1.10	1.34	1.09	1.04	0.96	1.11
	メディア社会学科	入学定員 A	105	117	117	117	117	115
		志願者数 B	2,301	2,199	3,195	2,737	2,553	2,597
		合格者数 C	492	502	453	410	494	470
		入学者数 D	134	143	116	117	116	125
		志願者倍率 B/A	21.91	18.79	27.31	23.39	21.82	22.66
入学定員充足率 D/A	1.28	1.22	0.99	1.00	0.99	1.09		
社会学部 合計	入学定員 A	230	254	254	254	254	249	
	志願者数 B	4,577	4,649	6,190	5,884	5,260	5,312	
	合格者数 C	1,066	1,113	946	881	1,056	1,012	
	入学者数 D	272	327	266	260	248	275	
	志願者倍率 B/A	19.90	18.30	24.37	23.17	20.71	21.32	
	入学定員充足率 D/A	1.18	1.29	1.05	1.02	0.98	1.10	



武蔵大学
「国際教養学部 国際教養学科」
設置に関するニーズ調査
結果報告書
【高校生対象調査】

令和2年9月
株式会社 進研アド

© Shinken-Ad. Co., Ltd. All Rights Reserved.

高校生対象 調査概要

1. 調査目的

2022年4月開設予定の武蔵大学「国際教養学部 国際教養学科」新設構想に関して、高校生からの進学ニーズを把握する。

2. 調査概要

		高校生対象調査
調査対象		高校2年生
調査エリア		北海道、青森県、宮城県、秋田県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、富山県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、広島県、愛媛県、高知県、福岡県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県
調査方法		郵送調査
調査対象数	依頼数	4,400人
	有効回収数	1,055人 有効回収率:24.0%
調査時期		2020年6月13日(土)～2020年7月27日(月)
調査実施機関		株式会社 進研アド

3. 調査項目

高校生対象調査
<ul style="list-style-type: none">・性別・高校種別・高校所在地・所属クラス・高校卒業後の希望進路・興味のある学問系統・武蔵大学「国際教養学部 国際教養学科」の特色に対する魅力度・武蔵大学「国際教養学部 国際教養学科」への受験意向・武蔵大学「国際教養学部 国際教養学科」への入学意向

高校生対象 調査結果まとめ



高校生対象 調査結果まとめ

回答者の属性

※本調査は、武蔵大学の「国際教養学部 国際教養学科」に対する需要を確認するための調査として設計。武蔵大学の主な学生募集エリアである東京都を中心に34都道府県の高校の高校2年生に調査を実施し、1,055人から回答を得た。

- 回答者の性別は「男性」が42.1%、「女性」が57.8%である。
- 回答者の在籍高校種別は「国立」が1.0%、「公立」が41.3%、「私立」が55.1%である。
- 回答者の在籍高校所在地は、武蔵大学の所在地である「東京都」が55.4%を占め、最も多い。次に「埼玉県」が22.4%、「神奈川県」が5.5%と続く。
- 回答者の所属クラスは「文系クラス(文系コース)」が65.5%を占め、最も多い。次に「理系クラス(理系コース)」が16.0%、「コース選択はない」が10.8%と続く。

高校卒業後の希望進路や興味のある学問系統

- 回答者の高校卒業後の希望進路を複数回答で聴取したところ、「私立大学に進学」の割合が88.4%で最も高い。次いで「国公立大学に進学」が41.6%、「専門学校・専修学校に進学」が6.9%と続く。私立大学への進学志望者が多いことから、武蔵大学がターゲットとする対象に調査を実施できていると考えられる。
- 回答者の興味のある学問系統を複数回答で聴取したところ、学部の学びと関連する「経済・経営・商学」が43.3%で最も高い。次いで、同じく学部の学びと関連する「文学(心理学、考古学、地理学、歴史学、哲学など含む)」が33.4%、「国際関係学」が31.6%、「語学」が26.7%と続く。

高校生対象 調査結果まとめ

武蔵大学「国際教養学部 国際教養学科」の特色に対する魅力度

- 武蔵大学「国際教養学部 国際教養学科」学部・学科共通の特色(A～D)に対する魅力度(※)は、4項目中すべてで8割を超える。このうち最も魅力度が高いのは、「A. 日本人と外国人の教授陣が英語で授業や正課外の指導を行うなかで、実践的で高度な英語運用能力が身につきます」の93.3%である。
- 武蔵大学「国際教養学部 国際教養学科」経済経営学専攻の特色(E, F)に対する魅力度(※)は、どちらも8割を超える。このうちより魅力度が高いのは、「E. 入学者全員に、本学の学位に加え、ロンドン大学の学位『Bachelor of Science in Economics and Management』を取得することが可能となる『パラレル・ディグリー・プログラム(PDP)』を提供します」の83.9%である。
- 武蔵大学「国際教養学部 国際教養学科」グローバルスタディーズ専攻の特色(G, H)に対する魅力度(※)は、どちらも8割を超える。このうちより魅力度が高いのは、「H. 国境や地域を越えた地球規模の課題に取り組むため、Global Relations、Global Communication Studies、Global Cultural Studiesという3つの分野を設定し、多様なテーマの科目を配置しています」の84.0%である。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

武蔵大学「国際教養学部 国際教養学科」への受験意向・入学意向

- 武蔵大学「国際教養学部 国際教養学科」を「受験したいと思う」と答えた人は、43.6% (460人) である。
- 武蔵大学「国際教養学部 国際教養学科」を「受験したいと思う」と答えた460人のうち、武蔵大学「国際教養学部 国際教養学科」のいずれかの専攻に入学したいと回答した人は、90.4% (416人) である。

高校生対象 調査結果まとめ

武蔵大学「国際教養学部 国際教養学科」への入学意向者数

※ここからは、武蔵大学「国際教養学部 国際教養学科」に対して、Q4で「受験したいと思う」と回答し、かつ、Q5で「『国際教養学科 経済経営学専攻』に入学したいと思う」「『国際教養学科 グローバルスタディーズ専攻』に入学したいと思う」と回答した人を入学意向者と定義し、分析を行う。

- 回答者全体における入学意向は39.4% (416人)で、予定されている入学定員100人を4倍以上上回る入学意向者がみられた。

<属性別>

◇性別

- 「男性」の入学意向は37.4% (444人中、166人)、「女性」の入学意向は41.0% (610人中、250人)と、男性は予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられ、女性も予定している入学定員数を2倍以上上回る入学意向者がみられた。

◇高校所在地別

- 「関東」エリアの高校在籍者からの入学意向は39.3% (952人中、374人)と、予定している入学定員数を3倍以上上回る入学意向者がみられた。武蔵大学の所在地である「東京都」の高校在籍者からの入学意向は41.6% (584人中、243人)と、予定している入学定員数を2倍以上上回る入学意向者がみられた。

◇所属クラス別

- 「文系クラス(文系コース)」在籍者からの入学意向は42.5% (691人中、294人)と、予定している入学定員数を2倍以上上回る入学意向者がみられた。

高校生対象 調査結果まとめ

◇高校卒業後の希望進路別

- 「国公立大学に進学」を考えている回答者の入学意向は36.0% (439人中、**158人**)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。武蔵大学を受験・入学する可能性が高い「私立大学に進学」を考えている回答者の入学意向は41.7% (933人中、**389人**)と、予定している入学定員数を3倍以上上回る入学意向者がみられた。

◇興味のある学問系統別

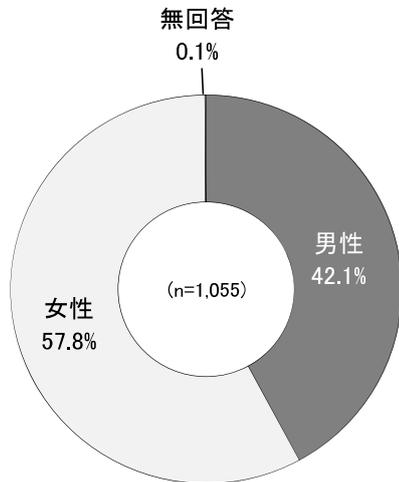
- 「国際関係学」に興味がある回答者の入学意向は68.5% (333人中、**228人**)と、予定している入学定員数を2倍以上上回る入学意向者がみられた。また、「経済・経営・商学」に興味がある回答者の入学意向は47.0% (457人中、**215人**)と、予定している入学定員数を2倍以上上回る入学意向者がみられた。さらに、「語学(言語学など含む)」に興味がある回答者の入学意向は58.2% (282人中、**164人**)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。その他、「文学(心理学、考古学、地理学、歴史学、哲学など含む)」に興味がある回答者の入学意向は38.4% (352人中、**135人**)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

高校生対象 調査結果

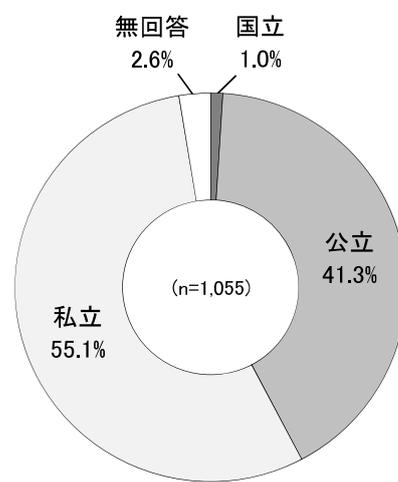


回答者の属性(性別/高校種別/高校所在地)

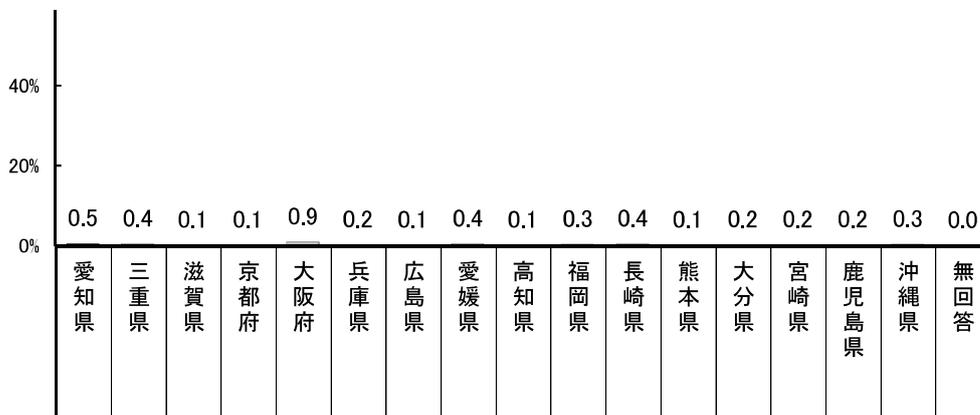
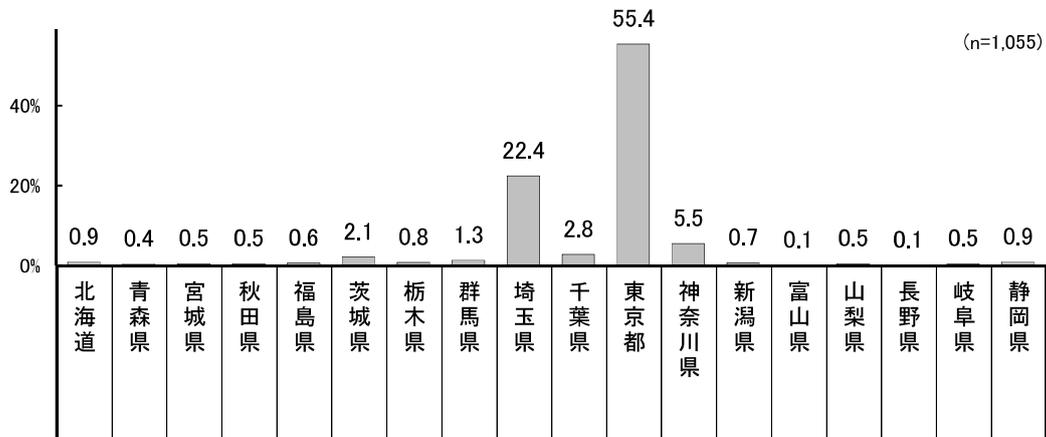
■性別



■高校種別

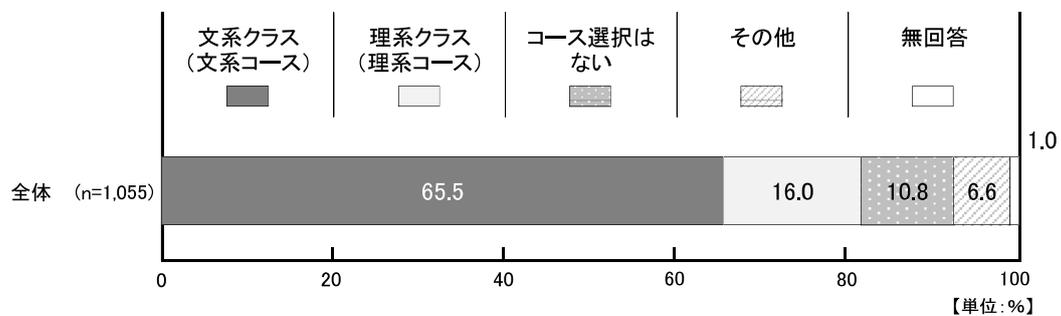


■高校所在地



回答者の属性(所属クラス)

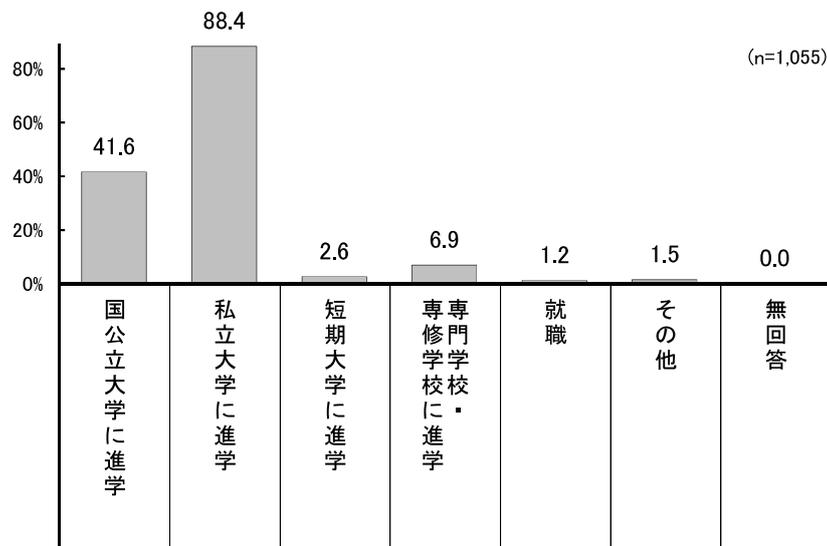
■所属クラス



高校卒業後の希望進路／興味のある学問系統

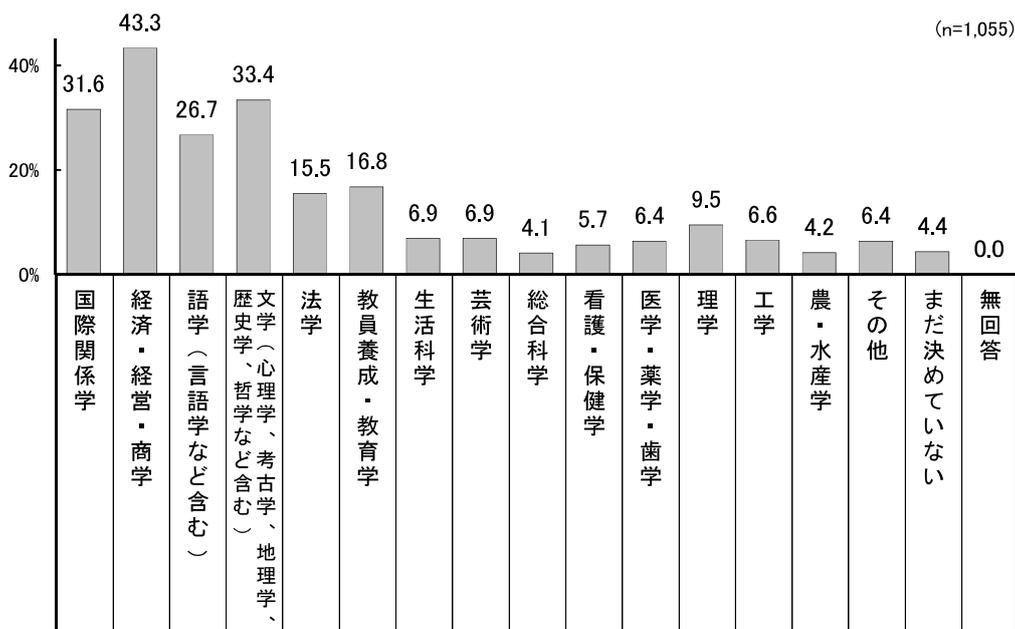
■高校卒業後の希望進路

Q1. あなたは、高校卒業後の進路について、現時点ではどのように考えていますか。以下の項目から、あてはまる番号すべてに○をつけてください。(いくつでも)



■興味のある学問系統

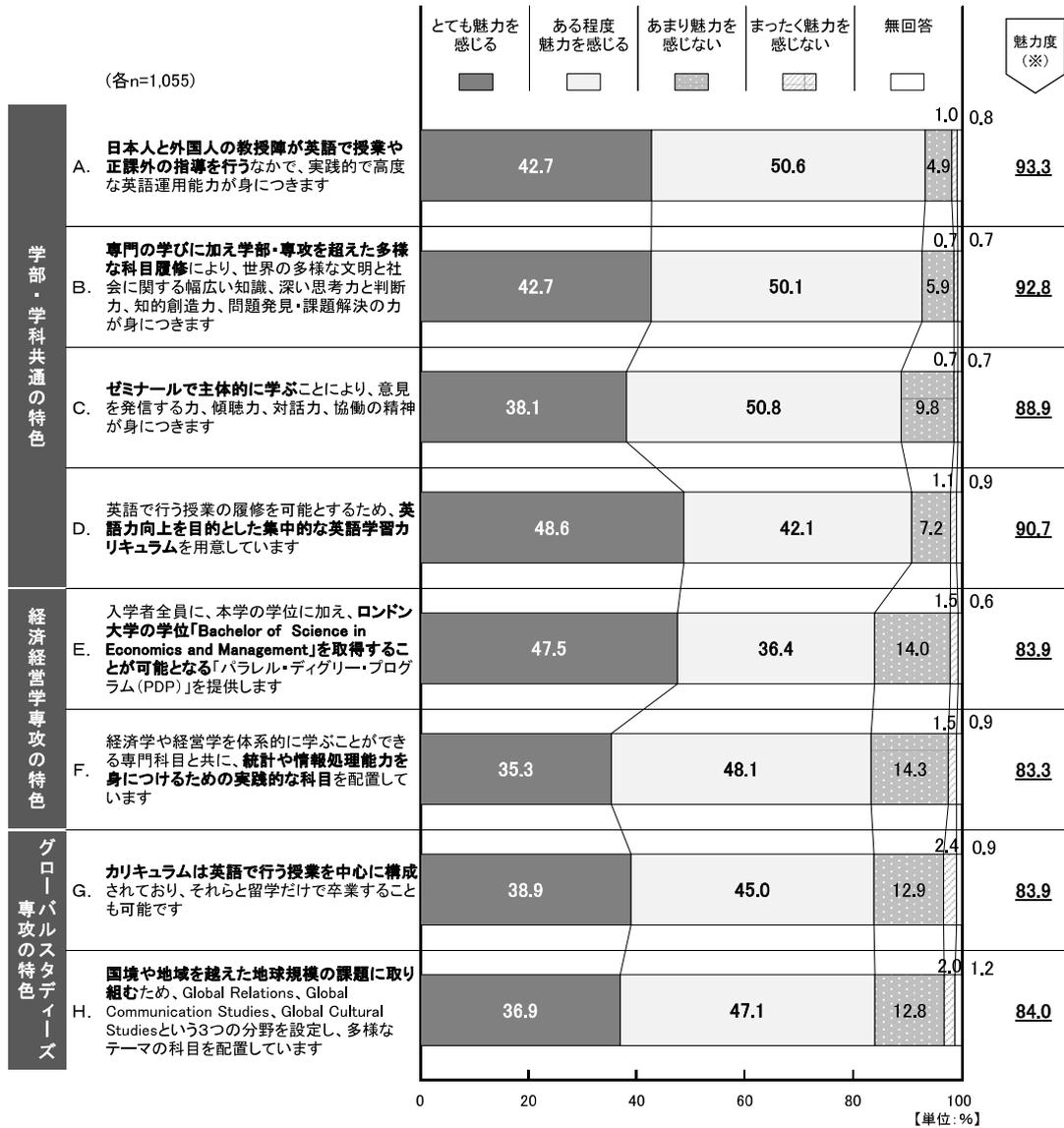
Q2. あなたは、どのような学問に興味がありますか。以下の項目から、興味のある学問系統の番号すべてに○をつけてください。(いくつでも)(現時点で進学を希望されていない方も、進学する場合を想像してお答えください。)



武蔵大学「国際教養学部 国際教養学科」の特色に対する魅力度

■武蔵大学「国際教養学部 国際教養学科」の特色に対する魅力度

Q3. 武蔵大学「国際教養学部 国際教養学科」(仮称、設置構想中)には、以下のような特色があります。それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



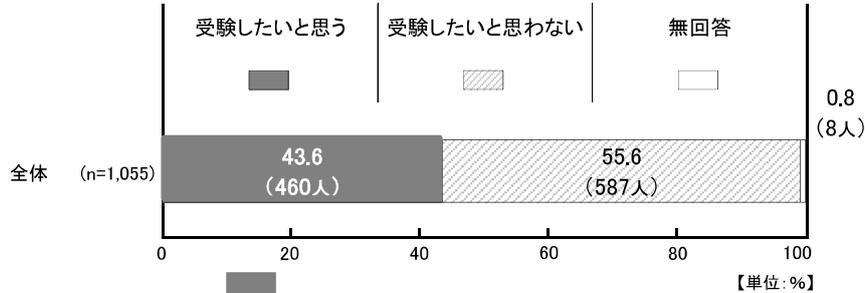
※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

※魅力度は、人数をもとに％を算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」の合計値と必ずしも一致しない

武蔵大学「国際教養学部 国際教養学科」への 受験意向／入学意向

■武蔵大学「国際教養学部 国際教養学科」への受験意向

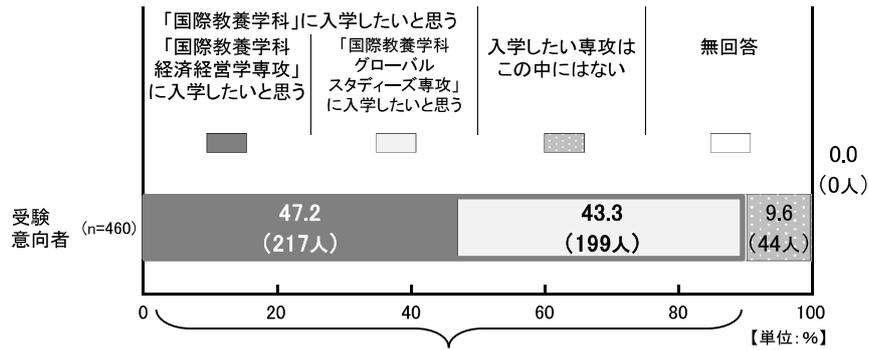
Q4. あなたは、武蔵大学「国際教養学部 国際教養学科」(仮称)を受験してみたいと思いますか。あなたの気持ちに近い番号1つに○をつけてください。(1つだけ)



「受験したいと思う」と答えた460人のみ抽出

■武蔵大学「国際教養学部 国際教養学科」への入学意向

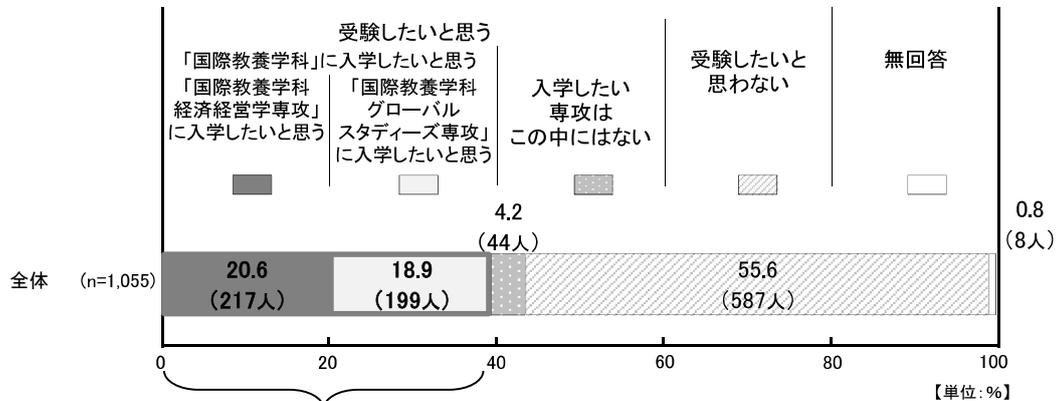
Q5. あなたは、武蔵大学「国際教養学部 国際教養学科 経済経営学専攻」または「国際教養学部 国際教養学科 グローバルスタディーズ専攻」(いずれも仮称、設置構想中)に合格したら、入学したいと思いますか。あなたの気持ちに近い番号1つに○をつけてください。(1つだけ)



「国際教養学科」に入学したいと思う: 90.4% (416人)

「受験意向(Q4)」と「入学意向(Q5)」を
かけあわせて集計(母数は全回答者)

■武蔵大学「国際教養学部 国際教養学科」への受験意向別入学意向

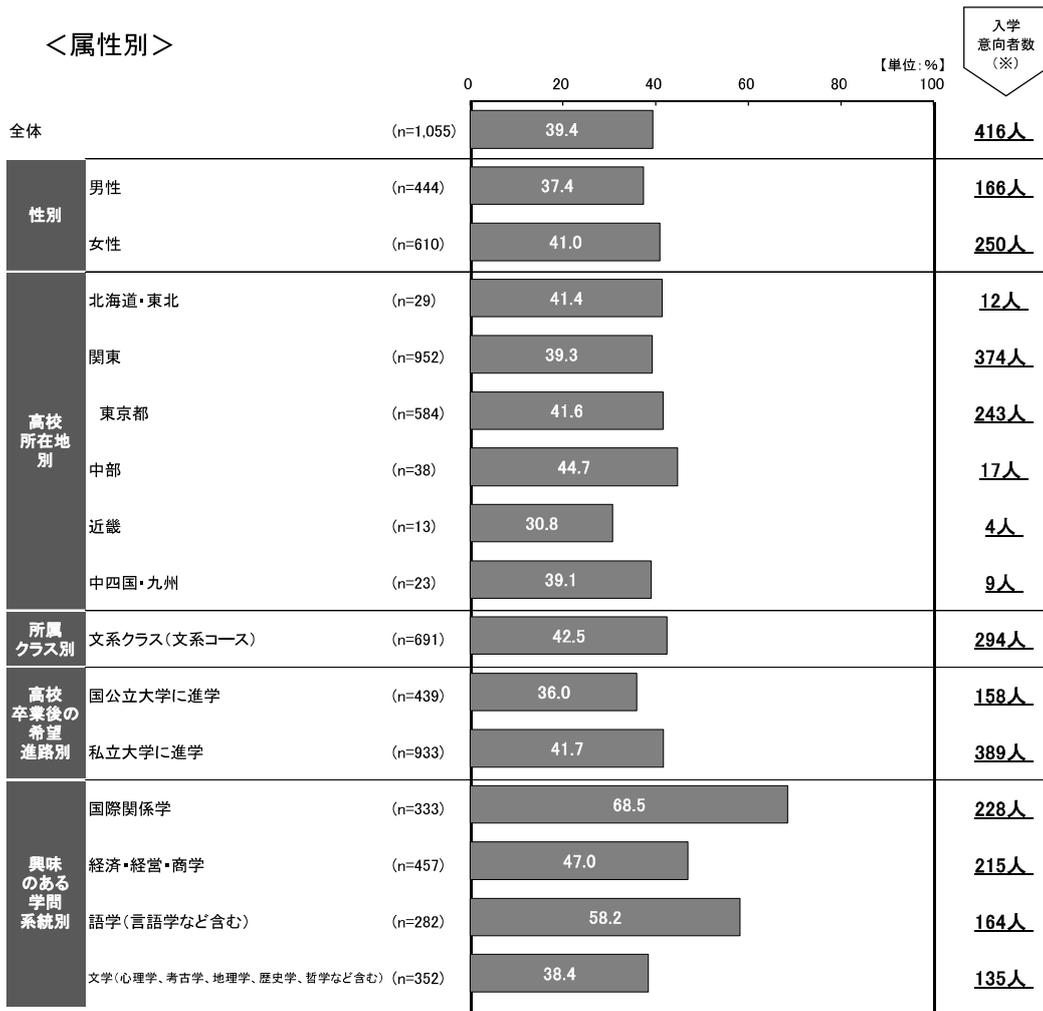


「国際教養学科」に入学したいと思う: 39.4% (416人)

武蔵大学「国際教養学部 国際教養学科」への 受験意向別入学意向<属性別>

■武蔵大学「国際教養学部 国際教養学科」への受験意向別入学意向<属性別>

※武蔵大学「国際教養学部 国際教養学科」に対して、
Q4で「受験したいと思う」と回答し、かつ、Q5で「『国際教養学科 経済経営学専攻』に
入学したいと思う」「『国際教養学科 グローバルスタディーズ専攻』に入学したいと思う」
と回答した人を入学意向者と定義し、分析を行う。



※入学意向者数=「受験したいと思う」かつ「『国際教養学科 経済経営学専攻』に入学したいと思う」
「『国際教養学科 グローバルスタディーズ専攻』に入学したいと思う」と回答した人の人数

卷末資料 調查票



武蔵大学

(学部学科専攻名は仮称)

国際教養学部 国際教養学科

経済経営学専攻・グローバルスタディーズ専攻

School of Liberal Arts and Sciences

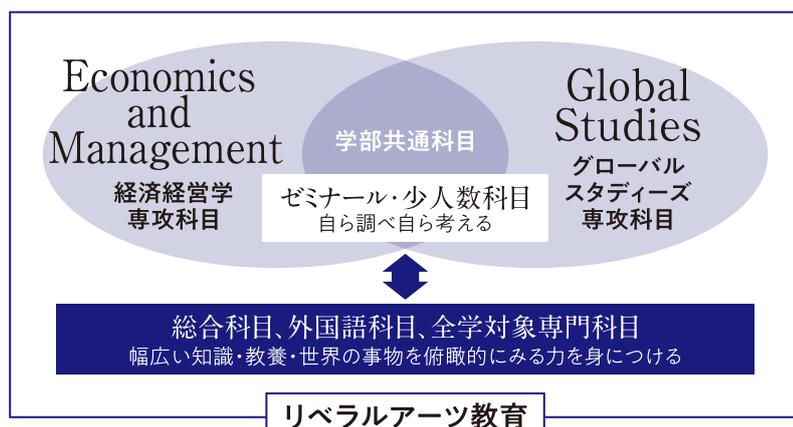
2022年4月 設置構想中

【学部の特徴】

- 1 日本人と外国人の教授陣が英語で授業や正課外の指導を行うなかで、実践的で高度な英語運用能力が身につきます
- 2 専門の学びに加え学部・専攻を超えた多様な科目履修により、世界の多様な文明と社会に関する幅広い知識、深い思考力と判断力、知的創造力、問題発見・課題解決の力が身につきます
- 3 ゼミナールで主体的に学ぶことにより、意見を発信する力、傾聴力、対話力、協働の精神が身につきます

【学びの流れ】

	1年次	2年次	3年次	4年次
外国語	英語による授業を履修するための土台となる英語力を身につける			
学部共通科目 (二専攻共通科目)	専攻の枠を超えて必要な基本技能、実践力、知識を身につける			
専攻基礎科目 (講義・ゼミ)	各専攻で基礎となる知識や方法論等を身につける			
専攻専門科目 (講義・ゼミ)		専攻基礎科目で身につけた知識を応用し、卒業論文、Capstone Projectにつながる専門研究を行う		
卒業論文 Capstone Project				4年間の学修成果のまとめ
留学・語学研修・ 海外フィールド実習	語学研修	海外フィールド実習、海外ボランティア等を経験		海外の大学で1年間の留学
副専攻	副専攻ごとに定められた科目群を第二の専門分野として学ぶ			



■ 学部共通科目には、専攻を問わず身につけるべき基本技能・実践力を養うための科目や、専攻の枠を超えて学ぶ意義のある科目が配置されています。

■ 所属する専攻の科目だけでなく、他専攻・他学部の科目や、全学の学生に開かれた科目(総合科目・全学対象専門科目)など多様な科目を履修できます。

経済経営学専攻 (仮称)

Economics and Management



【専攻の特色】

1 入学者全員に、本学の学位「学士(経済経営学)」に加え、ロンドン大学の学位「Bachelor of Science in Economics and Management」を取得することが可能となる「パラレル・ディグリー・プログラム(PDP)」を提供します

(ただしパラレル・ディグリー・プログラム(PDP)の履修を続けるには、ロンドン大学の毎年の期末試験に合格する必要があります)

2 経済学や経営学を体系的に学ぶことができる専門科目と共に、統計や情報処理能力を身につけるための実践的な科目を配置しています

3 英語で行う授業の履修を可能とするため、英語力向上を目的とした集中的な英語学習カリキュラムを用意しています

【学びの流れ】

	1年次	2年次	3～4年次	
武蔵大学の授業	<p>4～5月 英語を強化した授業</p> <p>6～7月 海外英語研修</p> <p>フィリピン・セブ島で英語研修に参加。先生とマンツーマンで英語を特訓し、一人ひとりが着実にスコアアップ。IELTSスコア5.5をめざす。</p> <p>徹底的に英語力を鍛える</p>	<ul style="list-style-type: none"> - 総合科目 - 学部共通科目 - 専攻基礎科目 <p>おもに教養を深めるための科目や専門の基礎となる科目を履修する。</p> <p>幅広い教養の学び</p>	<ul style="list-style-type: none"> - ゼミナール科目 - 専攻専門科目 <p>ゼミで、仲間と発表・討論を繰り返しながら主体的かつ論理的に物事を考え、発表できる力を養う。同時に、経済・経営・金融にかかわる専門知識を身につける。</p> <p>体系的な専門の学び</p>	<p>武蔵大学の学位を取得</p> <p>希望者は半年ないし1年間の卒業延期制度を適用</p>
ロンドン大学の授業	<p>1年次9月～2年次5月</p> <p>International Foundation Programme (IFP) (基礎教育プログラム)</p> <p>PDPの授業では、ロンドン大学が発行するSubjects guideと市販の教科書を使用する。</p> <p>すべて英語で行うIFPで基礎学力を磨く</p>	<p>毎年9月～翌年5月</p> <p>Bachelor of Science (BSc) (専門教育プログラム)</p> <p>BScがスタート。積み上げ方式の学びで理解を深める</p>	<p>5月 試験</p> <p>8月</p> <p>ロンドン大学の最終試験に合格 ロンドン大学の学位を取得</p> <p>翌年3月</p> <p>ロンドン大学卒業式</p> <p>最終試験を受験し、ロンドン大学の学位を取得!</p>	

想定される進路

- ▶ 戦略系コンサルティングファーム、外資系マーケティング調査会社やIT関連企業
- ▶ グローバルに事業を展開している商社やメーカー
- ▶ 銀行、保険会社、証券会社等の金融機関
- ▶ 公認会計士や監査法人
- ▶ 国内外の大学院(研究者養成機関)、官民の研究機関など

※上記は、ロンドン大学とのパラレル・ディグリー・プログラム修了生の進路実績を含んでいます。

グローバルスタディーズ専攻(仮称)

Global Studies



【専攻の特色】

- 1 カリキュラムは英語で行う授業を中心に構成されており、それらと留学だけで卒業することも可能です
- 2 国境や地域を越えた地球規模の課題に取り組むため、Global Relations、Global Communication Studies、Global Cultural Studies という3つの分野を設定し、多様なテーマの科目を配置しています
- 3 英語で行う授業の履修を可能とするため、英語力向上を目的とした集中的な英語学習カリキュラムを用意しています



【学びの流れ】

<p>1年次</p>	<p>週3回の英語の授業で英語力を磨く</p> <p>週3回の授業で、English for Academic Purposes (EAPとはアカデミック英語と呼ばれる、海外での大学における授業受講に必要な英語スキル)の基礎力を身につけます。</p>	
<p>2年次</p>	<p>英語習熟度をさらに高め、専門の学修を進める</p> <p>週3回の授業によりEAPの力をさらに高めながら、本格的に始まるグローバルスタディーズ専攻のゼミや講義での学修に取り組み、少しずつ専門性を深めていきます。自分の関心にあわせて、さまざまな科目を選択することができます。</p>	
<p>3年次</p>	<p>半年～1年間の留学や本学での学修により、専門の研究をいっそう深める</p> <p>前年度にAcademic Supervisorのアドバイスを受けながら留学先と履修科目を決めた上で、いよいよ長期留学が開始されます。研究する分野によっては、2年次に引き続き本学での授業履修を継続することもできます。</p>	
<p>4年次</p>	<p>「Capstone Project」で学びをまとめる</p> <p>4年間の学修の総まとめとして、個人指導のもと、1年をかけて研究を行います。自ら選んだテーマに取り組み、その成果を論文や口頭発表に結実させます。さらにグローバルな課題に関するワークショップ等の活動もプロジェクトの対象となります。研究を通じて批判的思考力や問題解決力、プレゼンテーション力などを養います。</p>	

想定される進路

- ▶ グローバルに事業を展開している商社やメーカー
- ▶ マスメディア、調査会社、広告代理店
- ▶ 旅客運輸会社、旅行会社
- ▶ 訪日外国人や外国人居住者に対する各種のサービスを担う地域密着型の企業や団体
- ▶ 大学等、教育機関のグローバル化推進部門 (国際センターや留学関連部門)や教育学習支援団体
- ▶ 国内外の大学院(研究者養成機関)、官民の研究機関 など

概要

- 【学部・学科・専攻名称】 国際教養学部 国際教養学科 ※1学部1学科2専攻を開設
経済経営学専攻・グローバルスタディーズ専攻(仮称)
- 【開設時期】 2022年4月(予定)
- 【開設場所】 武蔵大学 江古田キャンパス(東京都練馬区豊玉上1-26-1)
- 【修業年限】 4年
- 【入学定員】 100名(収容定員:400名)
- 【取得学位】 経済経営学専攻:学士(経済経営学)
グローバルスタディーズ専攻:学士(グローバルスタディーズ)



授業料等納付金

			国際教養学部 国際教養学科 経済経営学専攻・グローバルスタディーズ専攻(仮称)		
入学金					240,000円
内訳	学費	授業料	前学期	後学期	合計
		維持費	485,000円	485,000円	970,000円
		計	150,000円	150,000円	300,000円
	委託徴収諸会費	635,000円	635,000円	1,270,000円	
	合計	28,900円	0円	28,900円	
初年度合計			663,900円	635,000円	1,298,900円
			663,900円	635,000円	1,538,900円

※納入を「年一括」あるいは「学期ごと」から選択できます。
※委託徴収諸会費については、変更の可能性がございます。



養成する人材像

建学の三理想

1. 東西文化融合のわが民族理想を遂行し得べき人物
2. 世界に雄飛するにたえる人物
3. 自ら調べ自ら考える力ある人物

武蔵大学国際教養学部では、建学の三理想に基づき、他者尊重の精神に基づく協働力を備え、イノベーションの推進や危機の克服の先頭に立つことのできるグローバルリーダーとなる人を養成します。

- (1) 多文化環境の様々な場面において英語を駆使する力
- (2) リベラルアーツの精神に従い、分野横断的な知識・技能を身につけ、幅広い視点で物事を思考できる力
- (3) データや資料をもとに知的創造力を発揮し、問題発見・課題解決に至る力
- (4) 自らの見解を人にわかりやすく伝えるときにも他者の意見に耳を傾け、協働の精神をもって生産的な議論を行う態度と力

同系統分野の大学・学部・コース(一例)

- 上智大学 総合グローバル学部
- 千葉大学 国際教養学部
- 国際基督教大学 教養学部
- 早稲田大学 国際教養学部
- 法政大学 グローバル教養学部
- 青山学院大学 国際政治経済学部



武蔵大学

ゼミの武蔵 経済学部・人文学部・社会学部

※上記の内容は構想中の内容であり、今後変更となる場合があります。

武蔵大学 入試課

〒176-8534
東京都練馬区豊玉上1-26-1

TEL:03-5984-3715

【主要駅からのアクセス】

池袋駅	西武池袋線 6分	江古田駅 ※各駅停車にお乗りください。	徒歩 6分
新宿駅	都営大江戸線 14分	新江古田駅	徒歩 7分
渋谷駅	東京メトロ副都心線 21分	新桜台駅 ※小竹向原駅から 西武有楽町線となります。	徒歩 5分
有楽町駅	東京メトロ有楽町線 29分		

武蔵大学

① 書類等の題名

「武蔵大学既設学部及び同系統学部の学生納付金一覧(抜粋)」

② 出典

『学生納付金等調査報告書(令和2年度入学生)』(一般社団法人 日本私立大学連盟)

③ その他の説明

『学生納付金等調査報告書(令和2年度入学生)』(一般社団法人 日本私立大学連盟)より必要箇所を抜粋の上、本学にて作成

資料 11 : 2020 年度版「EF EPI 英語能力指数」結果

【EF EPI 英語能力指数について】

この EF EPI2020 は、2019 年に EF 英語標準テスト(EF SET)またはイー・エフ・エデュケーション・ファースト・ジャパン株式会社の英語実力テストを受けた 220 万人を超える受験者のテストデータを基にしている。EF SET は、オンラインで受けられる読解力とリスニング力を測る適応型英語テストであり、このテストは標準化され、客観的にスコアが付けられている。

1. 世界ランキング

順位	国名	順位	国名
1	オランダ	11	ルクセンブルク
2	デンマーク	12	南アフリカ
3	フィンランド	13	クロアチア
4	スウェーデン	14	ハンガリー
5	ノルウェー	15	セルビア
6	オーストリア	16	ポーランド
7	ポルトガル	17	ルーマニア
8	ドイツ	18	スイス
9	ベルギー	19	チェコ共和国
10	シンガポール	20	ブルガリア
		55	日本

2. アジアランキング

順位	国名	順位	国名
1	シンガポール	11	パキスタン
2	フィリピン	12	バングラデシュ
3	マレーシア	13	ベトナム
4	韓国	14	スリランカ
5	香港特別行政区	15	インドネシア
6	中国	16	モンゴル
7	マカオ特別行政区	17	アフガニスタン
8	インド	18	カンボジア
9	日本	19	ウズベキスタン
10	ネパール	20	タイ

(出典)EF Education First Japan 株式会社「EF EPI 特別レポート」より抜粋の上、本学にて作成

<https://www.efjapan.co.jp/epi/>

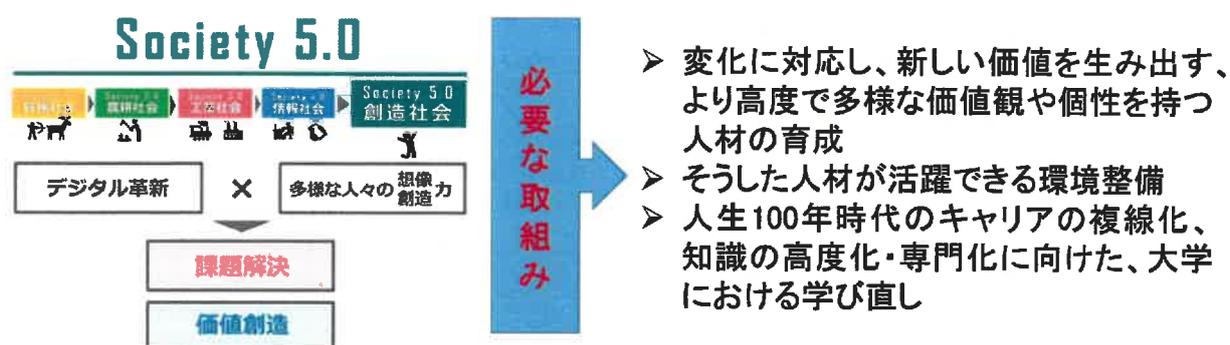
(抜粋) 今後の採用と大学教育に関する 提案

— 概要版 —

2018年12月4日

一般社団法人 日本経済団体連合会

はじめに — 求められる人材と今後の採用、大学教育のあり方 —



大学教育への期待が高まる

経団連

2021年度以降
入社対象の
「採用選考の
指針」を策定
しないことを
決定

認識された課題

- **大学:**
世界水準の研究開発と質の高い教育を提供すること
- **企業:**
求める人材像やキャリア形成の考え方を明確化し、外部に発信すること

今後の採用や、
大学に期待する
教育改革につい
て、提案

I. 企業の新卒採用の現状と今後に向けた課題整理

1. 新卒採用時の企業の対応の状況

(1) 募集・選考の現状

<文系>

- ジェネラリスト採用
- ポテンシャル採用
(入社後は、ジョブローテーションで育成される)
- 入社後の職務内容・キャリアパスは先輩社員の事例を通じて紹介

<理系・技術系>

- 「マッチング方式」等
- 選考に際しては、専門分野の履修科目や成績を評価しつつ、研究に取り組む姿勢や方法、独自の問題意識などを重視
- 入社後の職務内容・フィールドを募集時に提示

<専門職種>

- (研究開発、アクチュアリー、クオンツ、高度IT人材、戦略財務会計、法務、経理等の専門人材)
- 求める専門能力、スキル、入社後のキャリアパス等を明示

(2) 学生に求める資質・能力

社会人の資質

創造性、チャレンジ精神、行動力、責任感、論理的思考能力、コミュニケーション能力、忍耐力、協調性 等

学生に求める知識・能力

- ・リベラルアーツ
- ・語学(英語)力 / 情報リテラシー

その他

- ・地球規模課題や世界情勢への関心
- ・学外活動や社会経験を評価

I. 企業の新卒採用の現状と今後に向けた課題整理

2. 今後、検討が必要な課題

(1) 新卒採用のあり方

Society 5.0 時代に適合した人材活用、評価・処遇のあり方を考える中で、様々な採用・選考機会を提供し、多様な人材を獲得することが必要

- 採用時期や対象者の多様化：新卒一括採用のほか、卒業時期の異なる学生や未就職卒業者、留学経験者、外国人留学生などを対象に、夏季・秋季の採用・入社にも柔軟に対応
- 今後、専門的な知識・技能や職務経験を有する高度な人材の採用にあたっては、ジョブ型雇用の仕組みを構築する中で、多様な選択肢を設ける(新卒・既卒、文系・理系の垣根を設けない通年採用・通年入社等)

(2) 企業が求める人材像の共有のあり方

- キャリア教育等の実施に向けた大学との協力
- 1年次や2年次など早い段階における長期インターンシップに取り組む企業の拡大
- ジェネラリストとしての「就社」ではなく「就職」を念頭においた専門知識の修得と、企業における適切な評価・活用

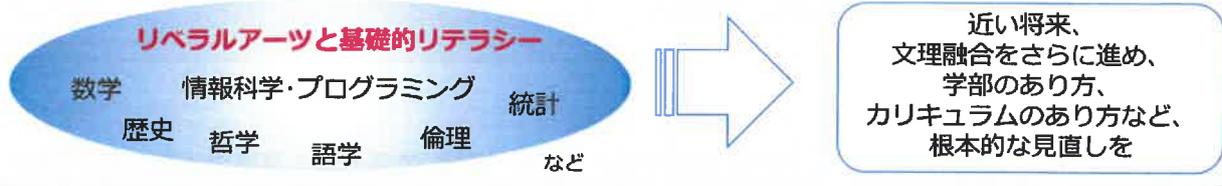
(3) 大学と企業との継続的対話

- 企業は経済社会の課題や技術革新の状況、求める人材像などについて、大学側に継続的に発信し、大学と対話の仕組みを構築することが必要
- インターンシップの今後のあるべき姿も検討課題として取り上げる

II. 大学に期待する教育改革

1. 文系・理系の枠を越えた基礎的リテラシー教育

すべての学生に、**リベラルアーツと基礎的リテラシー**、**文章・情報の正確な読解力**、**外部への的確な表現力・論理的な説明力**が求められる



2. 大学教育の質保証

高大接続の円滑化のさらなる推進を前提として、

- **単位取得要件や成績・卒業要件の厳格な運用**
- **授業方法の改革**

- ① 少人数のゼミナール形式で、ディスカッションを通じて主体的に学ぶ教育
- ② PBL (Project Based Learning) 型の授業
- ③ 実務家教員による産学連携の授業

- **成績評価方法の改革**

学生がどれだけ主体的に学び、深く考え抜いたかのプロセスや知的作業の結果を評価

3. グローバル化のさらなる進展

- **早期から学生への異文化体験を促進**

- ・ 学生の海外留学、ギャップイヤー取得の奨励
- ・ 海外からの留学生受け入れ拡大
- ・ 海外大学との教育連携のさらなる推進 (ダブルディグリーやジョイントディグリー)
- ・ 海外大学との整合性のある学事暦の導入 など

- **外国人留学生の日本企業への就職支援**

- ・ 在留資格変更手続きの簡素化・迅速化
- ・ 就職に必要なスキルに関する研修や情報提供
- ・ インターンシップ機会の拡充 など

II. 大学に期待する教育改革

4. 情報開示の拡充と学修成果の見える化

<大学に関する情報>

- ・ 法律で義務付けられている情報のほか、「教育成果」「大学教育の質に関する情報」などを他の大学と比較可能なかたちで開示 (例：米国大学スコアカード)

<学生に関する情報>

- ・ **学修ポートフォリオ等の活用**
学生が大学で何を身につけ、何が身につけていないかを可視化
- ・ 各科目の評価に加え、学部内での相対的順位の表示なども検討すべき

5. 初年次におけるキャリア教育の実施

- ① インターンシップに対する理解の醸成
- ② 大学入学から間もない時期からのキャリア教育

により、学生が就職・進路を見据えて、目的をもって学ぶようになる



実施にあたっては、

- ・ 企業担当者が「職務内容」「必要な資質・能力」などを、学生に直接語ること、
- ・ 学生が企業で実地の職務に従事すること

6. リカレント教育の拡充

人生100年時代
… キャリアパスの複線化・マルチステージ化



若者から高齢者までの多様な人材が、
能動的に求められるスキルを学び続けることが重要



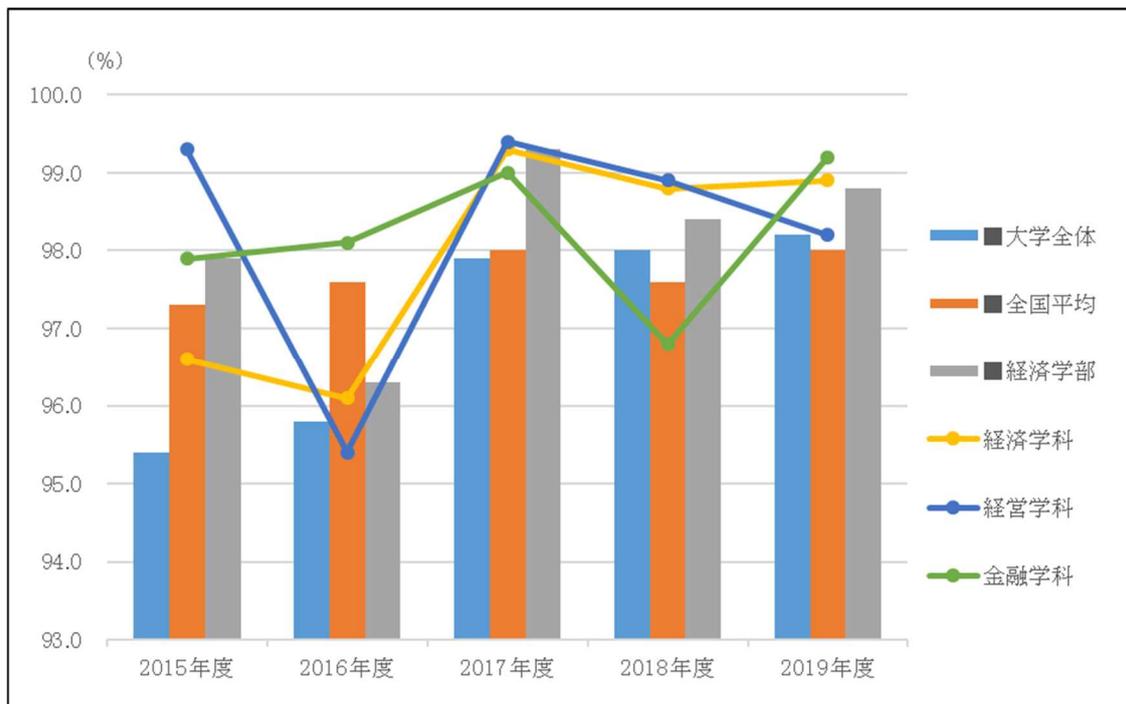
大学に求められる対応として、

- ✓ 産業界と連携した実践的・専門的プログラムの開発
- ✓ 社会人が受講しやすい環境の整備
- ✓ オーダーメイド型研修の実施 など

また、長期雇用を前提に企業が担ってきた人材育成に、今後、大学が参画していくことも課題

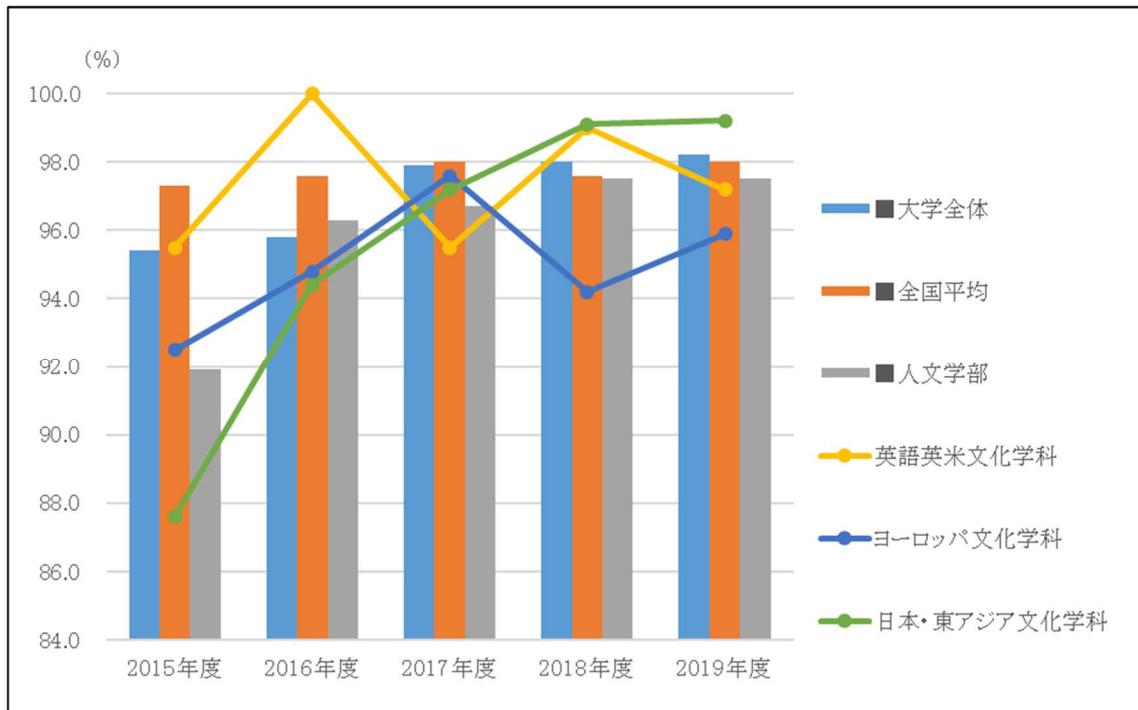
資料 13：武蔵大学既設学部就職状況(2015～2019年度)

1. 経済学部



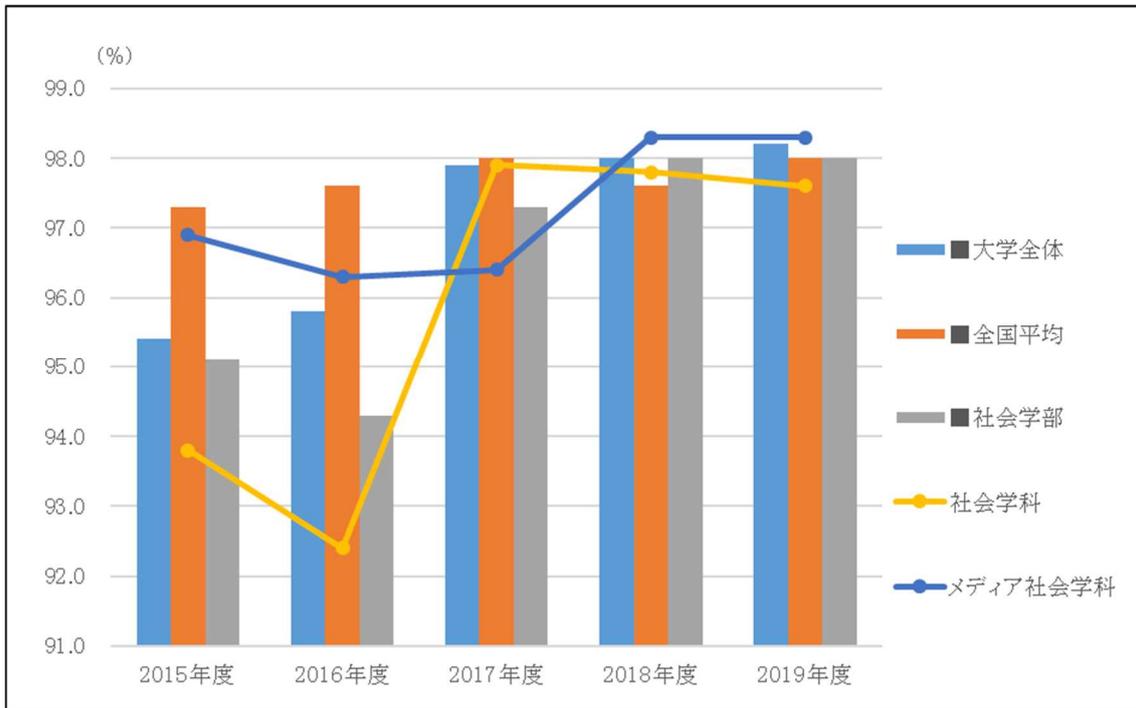
	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
■大学全体	95.4	95.8	97.9	98.0	98.2
■全国平均	97.3	97.6	98.0	97.6	98.0
■経済学部	97.9	96.3	99.3	98.4	98.8
経済学科	96.6	96.1	99.3	98.8	98.9
経営学科	99.3	95.4	99.4	98.9	98.2
金融学科	97.9	98.1	99.0	96.8	99.2

2. 人文学部



	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
■大学全体	95.4	95.8	97.9	98.0	98.2
■全国平均	97.3	97.6	98.0	97.6	98.0
■人文学部	91.9	96.3	96.7	97.5	97.5
英語英米文化学科	95.5	100.0	95.5	99.0	97.2
ヨーロッパ文化学科	92.5	94.8	97.6	94.2	95.9
日本・東アジア文化学科	87.6	94.4	97.2	99.1	99.2

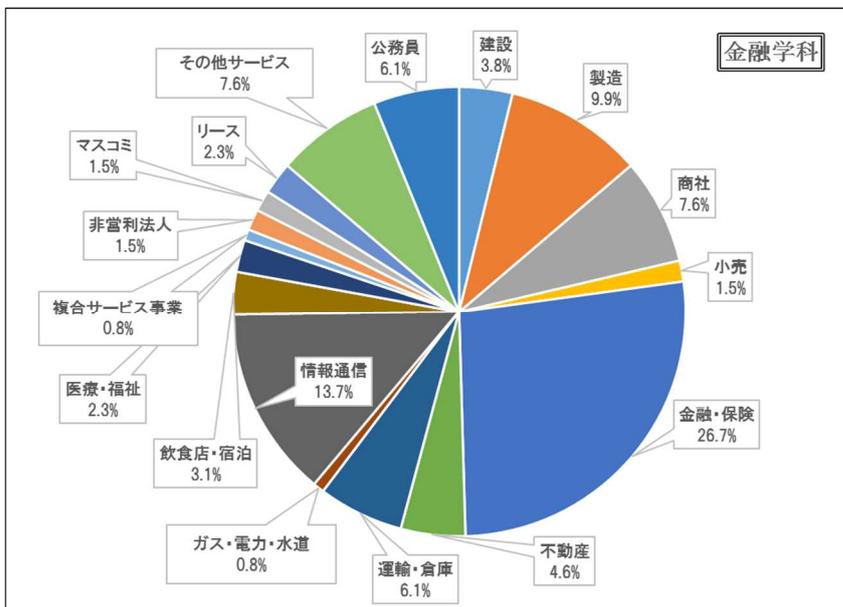
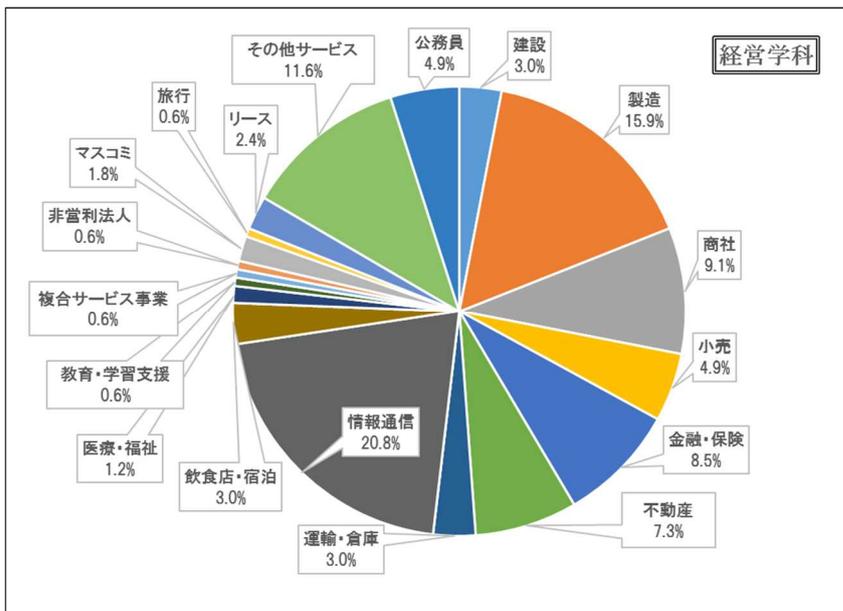
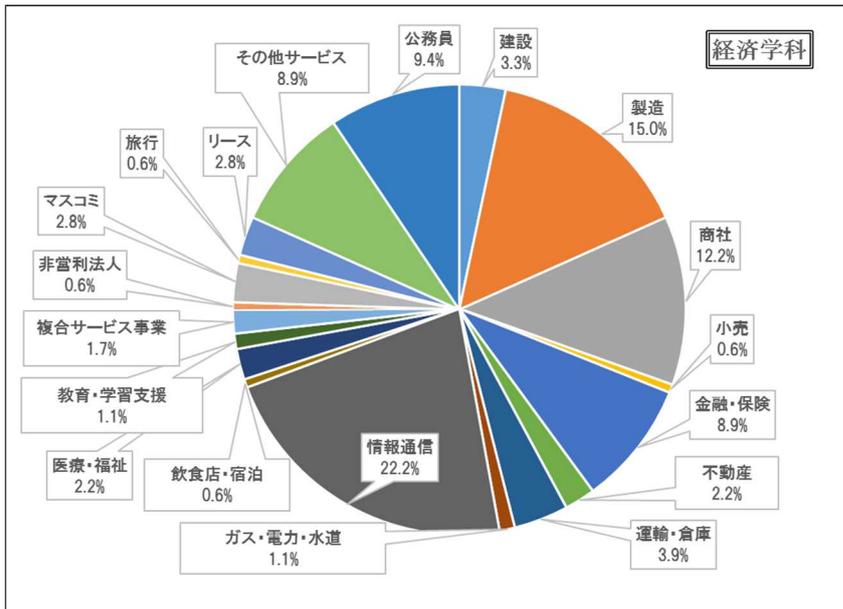
3. 社会学部



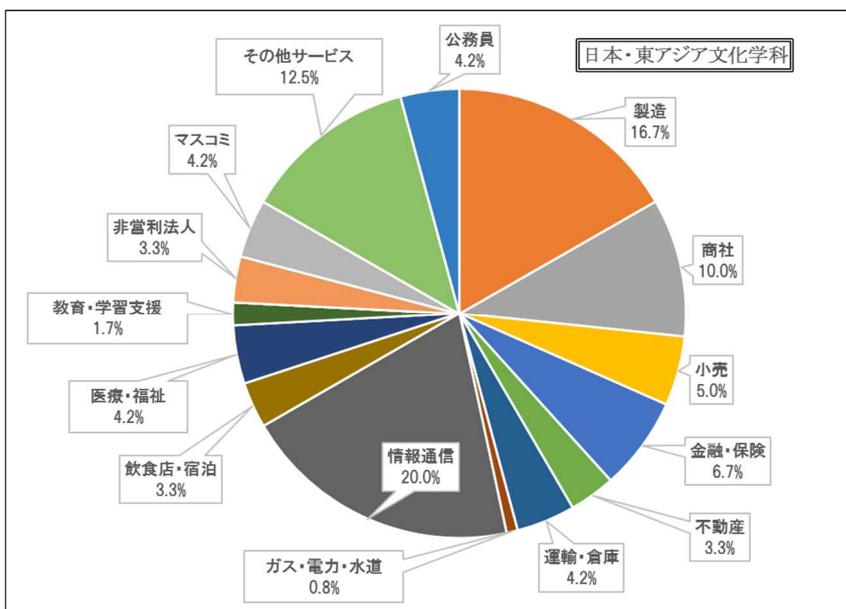
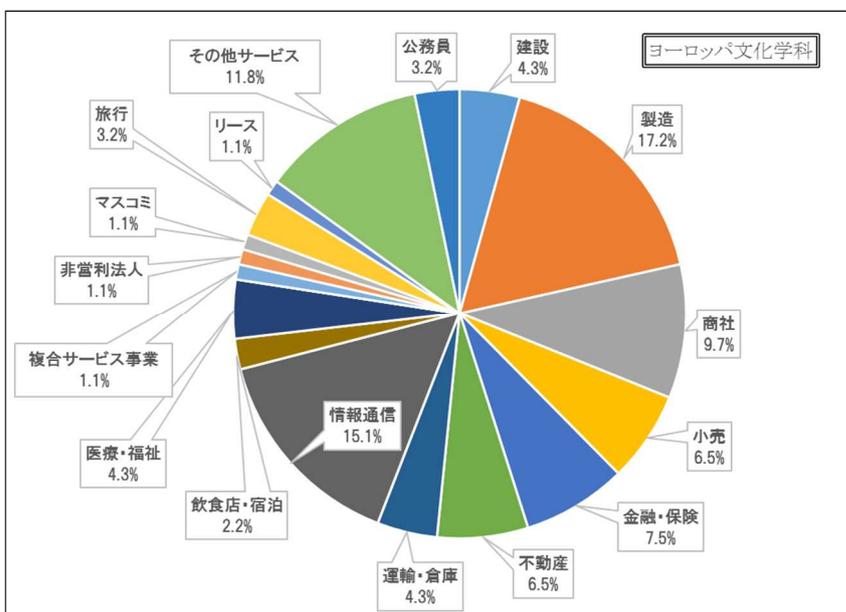
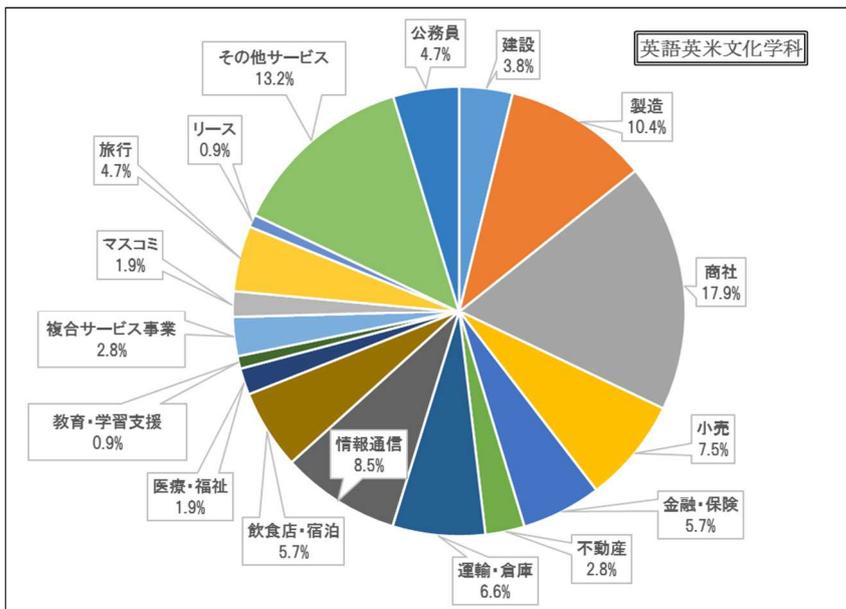
	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
■ 大学全体	95.4	95.8	97.9	98.0	98.2
■ 全国平均	97.3	97.6	98.0	97.6	98.0
■ 社会学部	95.1	94.3	97.3	98.0	98.0
社会学科	93.8	92.4	97.9	97.8	97.6
メディア社会学科	96.9	96.3	96.4	98.3	98.3

資料 14：既設学部の業種形態別就職状況（2019 年度）

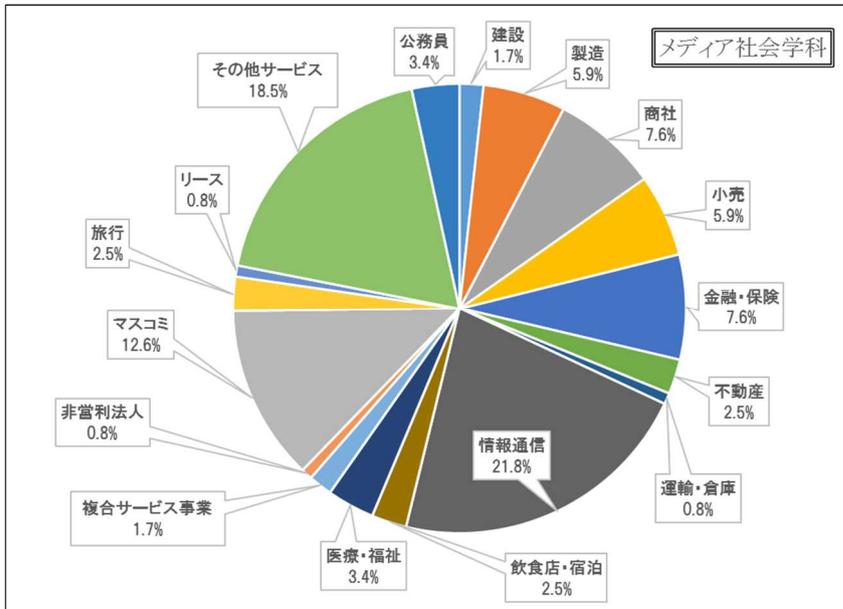
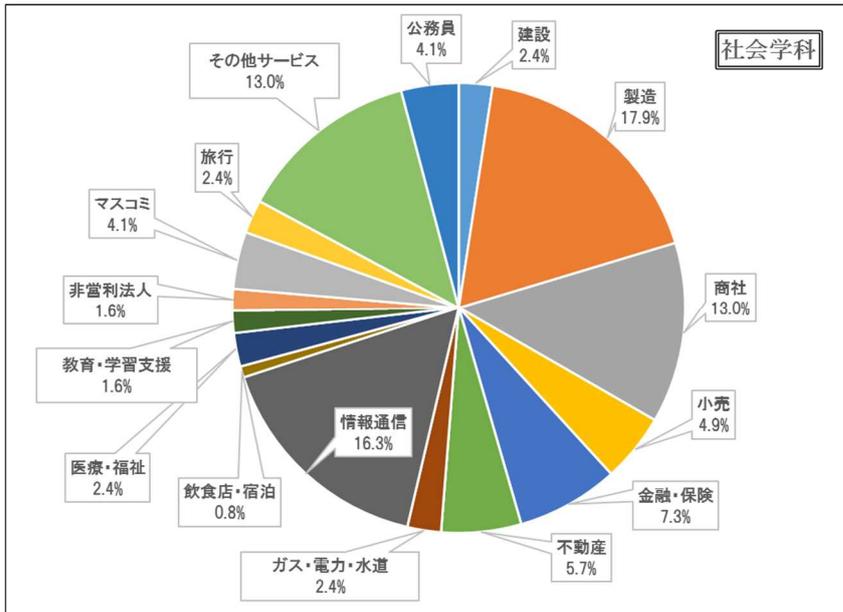
1. 経済学部



2. 人文学部



3. 社会学部



武蔵大学「国際教養学部 国際教養学科（仮称）」
設置構想に係る企業アンケート調査 報告書

令和2年5月

株式会社高等教育総合研究所

目次

1	調査の概要	1
2	全質問項目の集計結果	2
3	集計結果のポイント	15

添付資料

「武蔵大学 国際教養学部 国際教養学科（仮称）設置構想に係る企業アンケート調査」用紙

1 調査の概要

- ◆調査の目的 : 本調査は、武蔵大学が令和4年4月設置に向けて構想中の「国際教養学部 国際教養学科（仮称）」の卒業生の就職におけるニーズを、大学外の公正な第三者機関によりアンケートを用いて測ることを目的とする。

- ◆調査期間 : 令和2年1月～3月

- ◆調査対象 : 令和4年4月に設置構想中の「国際教養学部 国際教養学科（仮称）」の卒業生の採用が期待できる企業・団体 228 件を対象とした。なお、対象は過去に武蔵大学の卒業生を採用した実績がある企業・団体や、武蔵大学に来訪した企業・団体とした。

- ◆調査方法 : 武蔵大学が構想中の「国際教養学部 国際教養学科（仮称）」の概要とアンケート用紙を採用担当者に配付し、回答後に回収した。なお、配付は郵送の他、大学で実施した学内企業説明会時に行った。

- ◆調査内容 : アンケート項目は全 11 問で、9 問が選択肢式、2 問を記述式とした。主な質問内容は、以下の通りである。
 - 『企業・団体の基本情報』
 - 『企業・団体が大学卒業生を採用する際に重視する点について』
 - 『武蔵大学「国際教養学部 国際教養学科（仮称）」の卒業生の採用見込みについて』

- ◆回収件数 : 208 件 (配付件数 228 件 / 回収率 91.2%)

2 全質問項目の集計結果

2～14 ページは、アンケートで回答を得た 208 件の回答結果に基づく全質問項目の集計結果である。(※「構成比」(%) はいずれも、小数第二位を四捨五入。よって、合計は必ずしも 100.0%と一致しない。)

問1 貴社・貴団体の業種をお答えください。(あてはまるもの1つに○をしてください。)

番号	選択項目	回答数	構成比
1	建設業	11	5.3%
2	製造業	55	26.4%
3	卸売業、小売業	37	17.8%
4	金融業、保険業	27	13.0%
5	不動産業、物品賃貸業	9	4.3%
6	交通・運輸業・倉庫業	6	2.9%
7	電気・ガス・熱供給・水道業	1	0.5%
8	情報通信業	29	13.9%
9	調査・研究・専門技術サービス業	8	3.8%
10	宿泊業・飲食サービス業	2	1.0%
11	生活関連サービス業	0	0.0%
12	その他サービス業	12	5.8%
13	教育・学習支援業	3	1.4%
14	公務・非営利団体	3	1.4%
15	その他	5	2.4%
	計	208	100.0%

問2 貴社・貴団体の所在地(本社)をお答えください。(都道府県をご記入ください。)

※ 記入があった都道府県を、以下の通り集計した。

番号	選択項目	回答数	構成比
	宮城県	1	0.5%
	福島県	1	0.5%
	栃木県	1	0.5%
	埼玉県	5	2.4%
	千葉県	3	1.4%
	東京都	170	81.7%
	神奈川県	3	1.4%

	静岡県	1	0.5%
	三重県	2	1.0%
	京都府	6	2.9%
	大阪府	10	4.8%
	兵庫県	2	1.0%
	徳島県	1	0.5%
	福岡県	1	0.5%
	無回答	1	0.5%
	計	208	100.0%

問3 貴社・貴団体の従業員規模はどれに該当しますか。(あてはまるもの1つに○をしてください。)

番号	選択項目	回答数	構成比
1	100名未満	12	5.8%
2	100～499名	29	13.9%
3	500～999名	36	17.3%
4	1,000～4,999名	78	37.5%
5	5,000～9,999名	23	11.1%
6	10,000名以上	29	13.9%
	無回答	1	0.5%
	計	208	100.0%

問4 貴社・貴団体において、大学新卒者を採用する際に、重視する能力・体験等をお答えください。(あてはまるものすべてに○をしてください。)

※ 複数回答項目のため、回答数は延べ。

※ 構成比は、回答した208件のうち、各項目を挙げた者の割合。

番号	選択項目	回答数	構成比
1	コミュニケーション能力	197	94.7%
2	基礎的な学力	108	51.9%
3	語学力	38	18.3%
4	創造的思考力	73	35.1%
5	主体性・自律性	169	81.3%
6	目的達成志向	112	53.8%
7	適応力	109	52.4%
8	インターシップ経験	3	1.4%

9	ボランティア経験	0	0.0%
10	忍耐力	79	38.0%
11	理解力	75	36.1%
12	論理力	84	40.4%
13	IT スキル	13	6.3%
14	その他	8	3.8%
	無回答	1	0.5%

問5 貴社・貴団体において、大学卒業者を新卒採用する際に、求める英語能力についてお答えください。(あてはまるもの1つに○をしてください。)

番号	選択項目	回答数	構成比
1	非常に重視する	5	2.4%
2	ある程度重視する	59	28.4%
3	どちらともいえない	81	38.9%
4	重視しない	54	26.0%
5	全く重視しない	9	4.3%
	計	208	100.0%

※希望・期待する TOEIC スコアがあれば、お答えください。(問5で、「1. 非常に重視する」「2. ある程度重視する」と回答した 64 件のみ、回答を求めた。)

※ 記載があったスコア順に、以下の通り集計した。

番号	選択項目	回答数	構成比
	450 点	1	1.6%
	500 点	5	7.8%
	550 点	1	1.6%
	600 点	17	26.6%
	650 点	4	6.3%
	700 点	6	9.4%
	730 点	2	3.1%
	750 点	1	1.6%
	800 点	4	6.3%
	850 点	1	1.6%
	855 点	1	1.6%
	無回答	21	32.8%
	計	64	100.0%

問6 本学が構想中の「国際教養学部 国際教養学科(仮称)」には、主に3つの特色があります。各特色について、評価をお聞かせください。(それぞれ、あてはまるもの1つに○をしてください。)

(1) 英語による授業を中心としており、実践的かつ高度な英語力が身につく

番号	選択項目	回答数	構成比
1	非常に評価できる	120	57.7%
2	ある程度評価できる	64	30.8%
3	どちらともいえない	16	7.7%
4	あまり評価できない	1	0.5%
5	全く評価できない	7	3.4%
	計	208	100.0%

(2) 多様な科目履修によって、分野横断的な知識、俯瞰的な視点、批判的思考力が身につく

番号	選択項目	回答数	構成比
1	非常に評価できる	130	62.5%
2	ある程度評価できる	52	25.0%
3	どちらともいえない	18	8.7%
4	あまり評価できない	2	1.0%
5	全く評価できない	6	2.9%
	計	208	100.0%

(3) ゼミナールで学ぶことによって、意見を発信する力、傾聴力、協働の精神が身につく

番号	選択項目	回答数	構成比
1	非常に評価できる	147	70.7%
2	ある程度評価できる	45	21.6%
3	どちらともいえない	8	3.8%
4	あまり評価できない	1	0.5%
5	全く評価できない	7	3.4%
	計	208	100.0%

問7 本学が構想中の「国際教養学部 国際教養学科(仮称)」には、2つの専攻があります。各専攻の特色について、評価をお聞かせください。(それぞれ、あてはまるもの1つに○をしてください。)

①【経済経営学専攻】の特色

(1) ロンドン大学との協定をもとに本学部が開講している授業を履修することで、武蔵大学の学位【学士(経済経営学)】に加え、ロンドン大学の学位【BSc in Economics and Management】も取得可能

番号	選択項目	回答数	構成比
1	非常に評価できる	110	52.9%
2	ある程度評価できる	62	29.8%
3	どちらともいえない	29	13.9%
4	あまり評価できない	3	1.4%
5	全く評価できない	4	1.9%
	計	208	100.0%

(2) 経済学や経営学を体系的に学ぶと共に、統計や情報処理能力を身につける

番号	選択項目	回答数	構成比
1	非常に評価できる	130	62.5%
2	ある程度評価できる	61	29.3%
3	どちらともいえない	9	4.3%
4	あまり評価できない	3	1.4%
5	全く評価できない	5	2.4%
	計	208	100.0%

(3) 授業を通じて高度な英語力を、「Economic English」などの実習科目で実践的な英語力を学ぶ

番号	選択項目	回答数	構成比
1	非常に評価できる	111	53.4%
2	ある程度評価できる	69	33.2%
3	どちらともいえない	20	9.6%
4	あまり評価できない	3	1.4%
5	全く評価できない	5	2.4%
	計	208	100.0%

②【グローバルスタディーズ専攻】の特色

(1) 英語技能を高めるとともに、研究のための調査や資料収集、創造的技能を養う

番号	選択項目	回答数	構成比
1	非常に評価できる	107	51.4%
2	ある程度評価できる	78	37.5%
3	どちらともいえない	15	7.2%
4	あまり評価できない	3	1.4%
5	全く評価できない	5	2.4%
	計	208	100.0%

(2) 人文・社会科学の融合領域すなわちグローバルリレーションズ(国際関係論)、現代社会研究、比較文化研究と日本研究等の専門知識と理解を深める

番号	選択項目	回答数	構成比
1	非常に評価できる	98	47.1%
2	ある程度評価できる	74	35.6%
3	どちらともいえない	29	13.9%
4	あまり評価できない	3	1.4%
5	全く評価できない	4	1.9%
	計	208	100.0%

(3) 海外での学習機会を設け、異文化の中での学修を通じコミュニケーション力、主体的行動力、専門知識を身につける

番号	選択項目	回答数	構成比
1	非常に評価できる	135	64.9%
2	ある程度評価できる	53	25.5%
3	どちらともいえない	12	5.8%
4	あまり評価できない	3	1.4%
5	全く評価できない	5	2.4%
	計	208	100.0%

問8 本学が構想中の「国際教養学部 国際教養学科(仮称)」で身につく各能力について、貴社・貴団体でどの程度必要かお答えください。(それぞれ、あてはまるもの1つに○をしてください。)

(1)自然科学、人文科学、社会科学にまたがる学際的な知識・教養・実践力を身につけ、卒業後も知的好奇心をもって学び続ける力を有している

番号	選択項目	回答数	構成比
1	非常に必要だと思う	104	50.0%
2	ある程度必要だと思う	83	39.9%
3	どちらともいえない	10	4.8%
4	あまり必要だと思わない	5	2.4%
5	全く必要だと思わない	5	2.4%
	無回答	1	0.5%
	計	208	100.0%

(2)多文化環境の様々な場面において英語を駆使する力を身につけている

番号	選択項目	回答数	構成比
1	非常に必要だと思う	77	37.0%
2	ある程度必要だと思う	90	43.3%
3	どちらともいえない	29	13.9%
4	あまり必要だと思わない	9	4.3%
5	全く必要だと思わない	3	1.4%
	計	208	100.0%

(3)学びの足場としての日本から世界に問いかける姿勢をもって多様な文明、地球環境、政治と国際関係、経済とテクノロジー、社会と文化の動向に関する知識を修得している

番号	選択項目	回答数	構成比
1	非常に必要だと思う	88	42.3%
2	ある程度必要だと思う	88	42.3%
3	どちらともいえない	21	10.1%
4	あまり必要だと思わない	6	2.9%
5	全く必要だと思わない	5	2.4%
	計	208	100.0%

(4) 情報収集を効果的に行い有用な情報を得るとともに、データを統計的に分析し問題発見・課題解決に至る力を身につけている

番号	選択項目	回答数	構成比
1	非常に必要だと思う	130	62.5%
2	ある程度必要だと思う	62	29.8%
3	どちらともいえない	9	4.3%
4	あまり必要だと思わない	1	0.5%
5	全く必要だと思わない	6	2.9%
	計	208	100.0%

(5) ゼミナールでの学びを通じて主体的に学ぶなかで、自らの見解や意見を人にわかりやすく伝え、また他者の意見に耳を傾け、協働の精神をもって生産的な議論を行う態度と力を身につけている

番号	選択項目	回答数	構成比
1	非常に必要だと思う	152	73.1%
2	ある程度必要だと思う	46	22.1%
3	どちらともいえない	3	1.4%
4	あまり必要だと思わない	2	1.0%
5	全く必要だと思わない	5	2.4%
	計	208	100.0%

問9 本学が構想中の「経済経営学専攻(仮称)」および「グローバルスタディーズ専攻(仮称)」で養成する人材は、社会的ニーズが高いと思われますか。(あてはまる番号を枠内にそれぞれ記入)

① 経済経営学専攻(仮称)

番号	選択項目	回答数	構成比
1	ニーズは極めて高い	133	63.9%
2	ニーズはある程度高い	68	32.7%
3	どちらとも言えない	7	3.4%
4	ニーズは高くない	0	0.0%
	計	208	100.0%

②グローバルスタディーズ専攻(仮称)

番号	選択項目	回答数	構成比
1	ニーズは極めて高い	119	57.2%
2	ニーズはある程度高い	78	37.5%
3	どちらとも言えない	11	5.3%
4	ニーズは高くない	0	0.0%
	計	208	100.0%

問 10 本学が構想中の「経済経営学専攻(仮称)」および「グローバルスタディーズ専攻(仮称)」を卒業する学生を、採用したいと思えますか。(《A群》から専攻ごとにあてはまる番号を枠内に記入し、1または2の場合、《B群》の番号をご記入ください。)

①経済経営学専攻(仮称)

《A群》採用意欲

番号	選択項目	回答数	構成比
1	採用したい	117	56.3%
2	採用を検討したい	82	39.4%
3	どちらとも言えない	8	3.8%
4	採用しない	1	0.5%
	計	208	100.0%

《A群》で「1. 採用したい」「2. 採用を検討したい」と回答した 199 件が《B群》の回答対象である。

《B群》採用可能な人数

番号	選択項目	回答数	構成比
1	1名	50	25.1%
2	2名	36	18.1%
3	3名	13	6.5%
4	4名	1	0.5%
5	5名以上	19	9.5%
6	人数は未確定	79	39.7%
	無回答	1	0.5%
	計	199	100.0%

②グローバルスタディーズ専攻(仮称)

《A 群》採用意欲

番号	選択項目	回答数	構成比
1	採用したい	106	51.0%
2	採用を検討したい	90	43.3%
3	どちらとも言えない	12	5.8%
4	採用しない	0	0.0%
	計	208	100.0%

《A 群》で「1. 採用したい」「2. 採用を検討したい」と回答した 196 件が《B 群》の回答対象である。

《B 群》採用可能な人数

番号	選択項目	回答数	構成比
1	1 名	49	25.0%
2	2 名	33	16.8%
3	3 名	16	8.2%
4	4 名	3	1.5%
5	5 名以上	18	9.2%
6	人数は未確定	76	38.8%
	無回答	1	0.5%
	計	196	100.0%

問 11 本学が構想中の「国際教養学部 国際教養学科(仮称)」に対して、期待される点やご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

※ 66 件から回答を得た。

業種	記述内容
建設業	武蔵大の看板学部となるような真のグローバル人材を輩出する高等教育、研究を行ってほしいと思います。期待しております。
建設業	弊社も東南アジアを中心に海外事業を展開しておりますので、今後とも是非意見交換をさせて頂きたいと存じます。
建設業	人間として、日本人として、大人としての常識が備わった学生を育てて社会に送り出してもらいたい。
建設業	世の中の役に立つという志を持った人材の輩出を期待します。

製造業	2つの専攻について、近年社会的ニーズが高まっておりますので、ぜひ実現されることを期待しております。
製造業	色々な角度より物事を見たり、聞いたりできる”幅広い”人材の育成。
製造業	特に日本のメーカーにおいては、グローバル人材が不足しております。海外営業のみならず、総務、人事、経理など、どの分野においても、活躍を期待します。
製造業	自由な発想、主体的な行動が求められる世の中ですので、本業はもちろん、様々な文化や環境に触れる機会を。
製造業	時代にマッチしたすばらしい取組だと思えます。
製造業	海外に留学せずとも、語学を含め世界で通用する能力を体系立てて学ぶことができるのは、大変魅力があると思えます。
製造業	現状を多面的に捉え、分析、評価を行うに留まらず、課題解決策を考え、実行できる人材の輩出を期待したいです。「ゼミの武蔵」として、1人で考えるのではなく、他者と協働し、葛藤を乗り越えてきた自信を持っている人材を求めています。
製造業	当社も本格的に海外展開を行い、ぜひ海外事業の人員を確保したいと考えている為、非常に期待しております。
製造業	主体的、自立的な学生が増えることを期待しています。
製造業	地域社会と世界に貢献できる人材育成を期待します。
製造業	海外に営業展開する上で、必要な人材を確保したい。上記のような人材を貴学より採用したいと考えます。
製造業	ストレス耐性のある学生を希望
製造業	グローバル化の進展で英語力や議論できる力が今後重要になるとわれ、その様な能力を持つ学生の輩出に期待しております。
製造業	すべての会社がグローバル人材を必要としているわけではない。
製造業	グローバル化を目指す上で、国際系の学生には期待が大きいです。
卸売業、小売業	問題解決力及び論理的思考力に重点を置かれる事に期待致します。
卸売業、小売業	時代のニーズに合った学部・学科ですので、グローバルな人材を多く輩出して戴きたい。
卸売業、小売業	具体的に何を学んだかも大切ですがそれ以上に考える力や討議をする力、論理的に考えるなどをよりはぐくんで頂きたいです。
卸売業、小売業	今後、日本が世界に取り残されないためには、とても必要な教育、学問だと思います。期待値大です。
卸売業、小売業	日本も国際競争で戦える人材が必要になるはずですので、こちらの新設学部にて期待します。
卸売業、小売業	国際性豊かで、多様性への理解度が深い学生を育成されることを期待します。
卸売業、小売業	様々な考え方をもち、様々な理解力をもてる人材が多くなっていくことを期待しています。
卸売業、小売業	SDGS に代表される全世界的な環境や人権などに関わる基本的な知識を身につけることが今後重要となると思われる。
卸売業、小売業	履修科目の広○や、批判的思考能力を身に付けられることが、期待する点です。幅広く知識を吸収し、自分の意見を組み立て、他者に伝えることができる人材を輩出していただきたいと思います。
卸売業、小売業	当社で英語を使うことは、ほとんどありませんが、大学で学んだことを活かして、業務上でも応用できる柔軟性が欲しいと思います。
卸売業、小売業	当社では、英語を使う機会はありませんが、国際教養学部で身に付く人間力に期待しております。今度ともよろしくお願ひします。

金融業、保険業	多様な考え方を身につけた学生の人材育成に期待しております。
金融業、保険業	自らの見解を正しく伝えられ、また、傾聴する事が出来ることは期待出来ると思います。
金融業、保険業	実践的な英語を身に付ける特色や、経済学、経営学を学んだ学生は、今後のグローバル時代にとって特別な人材となると思 します。
金融業、保険業	多様性の受容力は、ビジネスにおいて不可欠な素養だと感じます。
不動産業、物品賃貸業	日本のことも良く知らないと言ったと世界で相手に上がれない。
不動産業、物品賃貸業	海外に「挑戦」していくという人材は今後益々需要が高まっていく様に感じます。
不動産業、物品賃貸業	広い視点、視野を持ち、国際的に活躍できる人材の育成を期待しております。
不動産業、物品賃貸業	国際社会の動向について常に情報を得ておく事、不可解、時代の流れに敏感になり、乗り遅れないフィットした提案をして頂けるような人材を求む。
不動産業、物品賃貸業	グローバル化が進み情報過多の時代ですので、こちらの学部で学ぶことができるのは学生達にとって非常に貴重な機会であると思います。自ら進んで学ぶリベラルアーツ教育についても、主体性や自主性を持って働くことが重要である弊社としては、非常に期待しております。
交通・運輸業・倉庫業	これから更にグローバル化が求められる社会において、とても必要であると感じます。
交通・運輸業・倉庫業	弊社でも海外事業に取り組んでおります。グローバルな視点を持った学生さんの育成に期待します。
電気・ガス・熱供給・水道業	弊社は海外に関連会社を持っていますので、語学力はダイレクトに役に立ちます。また国際ビジネスへの理解、多様性への理解はどこにいても有用だと思 います。
情報通信業	当社も地図情報というビッグデータを扱う会社でございます。近年は、そのデータ活用をする上での「データ処理」「統計」の知識を有する方を採用したいと考えておりますので、特に「経済経営専攻」におかれましては、当社として興味を持っております。
情報通信業	統計に加え、プログラムや情報処理についてもカリキュラムに含めていただけると今後の社会での活躍がより期待出来ると思 います。
情報通信業	英語力だけでなく、これまでの常識が通用しない世界でどう自律して生きていくかという点が身につけている方は社会に出ても活躍されていくと思 います。
情報通信業	広い視点で物事を見、周囲に適切に表現できる学生の輩出に期待します。
情報通信業	実践的な専門知識、英語力だけでなく、カリキュラムを通して多様性の理解、論理的思考力、自主性を持った人材の育成に期待します。
情報通信業	まずは社会人になる為の基礎、軸を持ち+ α の力として語学力をつけた人材を期待します。
情報通信業	実際に海外で使える英語力を養っていただきたいと考えております。今後ますます英語が話せる書けるといったコミュニケーション能力があることが前提で、そこに+ α を求められる社会になっていくと思 いますので、その社会で成長できる人材を育てていただければ大変ありがたいです。
情報通信業	取組が素晴らしいと思 います。さらに学生の自発的な行動を促し、自立的な人材になる素養を備えるきっかけを作っていただきたい。
情報通信業	卒業後も、知的好奇心を持って学び続ける力を養うことに共感致します。教養を深めつつ、それを土台として新しい取組みに挑戦できる人材を求めています。
情報通信業	自学自習の習慣を身につける機会を検討していただきたい。
情報通信業	どのようなことが学べるのか説明が聞きたいです。
情報通信業	卒業生がどのようなスキルを身に付けているかの明確な像があるとわかりやすいと思 います。
情報通信業	構想と本質や実体が、運営の中で解離していかないことを期待したいと思 います。

情報通信業	企業のグローバル化が進む中で、異文化に対する対応力や理解力が今後重要になってきます。国際教養学部の学生が今後社会へはばたく際は、新しい発想と柔軟性を各企業にもたらすことを期待しています。
調査・研究・専門技術サービス業	英語能力が高い、かつマーケティングに興味・関心がある方々がいれば、ぜひ採用したいです。
調査・研究・専門技術サービス業	多種多様な物事を理解したうえで、主体的に考え、行動できる人材を輩出できると期待しております。
調査・研究・専門技術サービス業	英語はスキルであり、専門性ではないので、「英語を使って何ができる」がわかると理解しやすい。
調査・研究・専門技術サービス業	問7①(1)が可能な場合、費用面(奨学金)の幅広いサポートを検討いただけるとありがたいです。
その他サービス業	弊社が採用に力を入れている英語人材の要件とマッチしており、非常に期待しております。
その他サービス業	幅広い視野とコミュニケーション力がある人材。
その他サービス業	海外要員として、語学力の高い人材を求めています。
その他サービス業	高い語学力又国際的視野を身に付けた学生をぜひ採用したいです。
その他	幅広い視点で物事を思考できる、データや資料をもとに類推し分析することができる能力や素養を備えた学生の育成に体へ関心があります。ぜひ採用させていただきたいと思います。
その他	医療や介護においても、必要な人材になると思います。ぜひ採用したいと考えております。

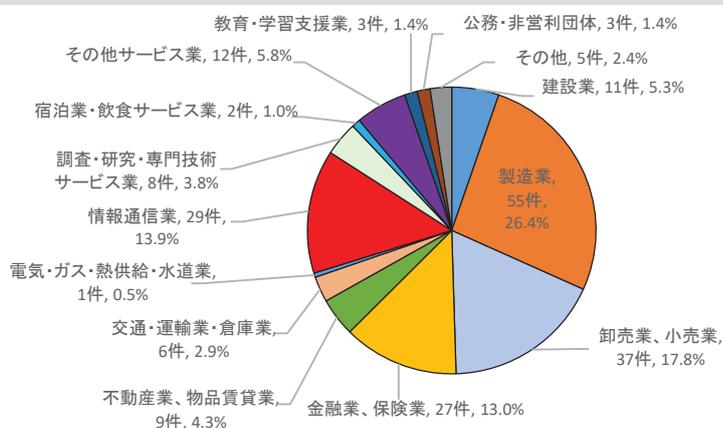
3 集計結果のポイント

※「構成比」(%) はいずれも、小数第二位を四捨五入。よって、合計は必ずしも 100.0% と一致しない。

- 全回答のうち、約 3 割が「製造業」、約 2 割が「卸売業、小売業」。

回答を得た 208 件の業種として、「製造業」(55 件、26.4%)、「卸売業、小売業」(37 件、17.8%)、「情報通信業」(29 件、13.9%)、「金融業、保険業」(27 件、13.0%) が他の業種と比べ多い構成となっている。なお、設定した 15 業種のうち、14 業種より回答を得られた。

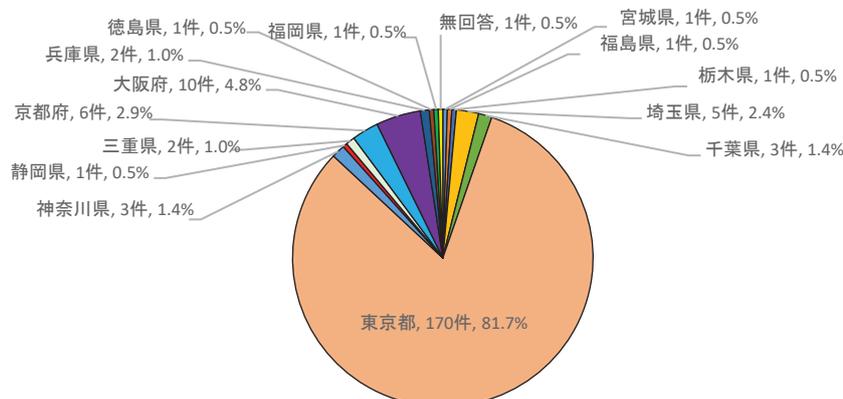
グラフ 回答元の業種 (「問1」結果より)



- 8 割が東京都に所在する企業・団体。

回答を得た 208 件の所在地(本部)として、「東京都」(170 件、81.7%)への回答が多かった。また、「東京都」に加え「埼玉県」(5 件、2.4%)、「千葉県」(3 件、1.4%)、「神奈川県」(3 件、1.4%)の南関東エリアを合計すると、全体の 87.0%となっている。

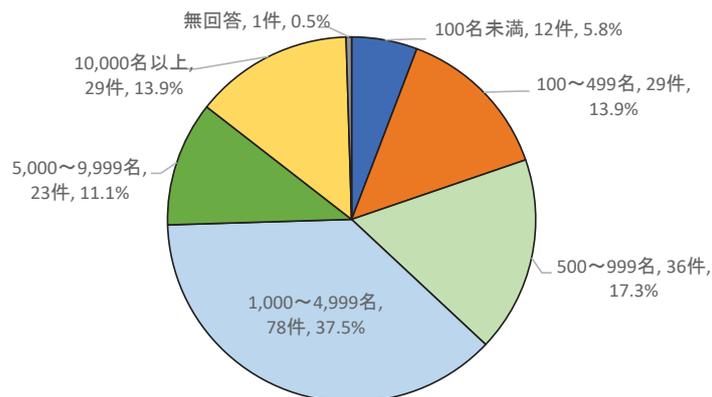
グラフ 回答元の本部所在地 (「問2」結果より)



● 6割以上が従業員1,000人以上の企業・団体。

回答を得た208件の従業員規模として、「1,000～4,999名」（78件、37.5%）への回答がもっとも多かった。なお、1,000名以上を回答した企業・団体の合計は130件となり、全体の62.5%を占めている。

グラフ 回答元の従業員規模（「問3」結果より）

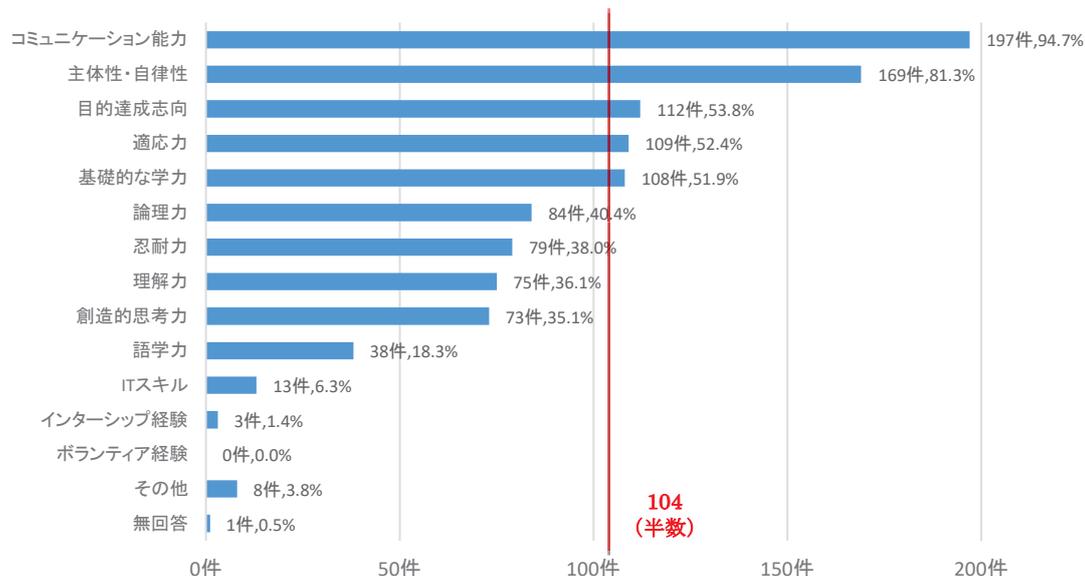


● 9割以上が、新卒生の採用時に「コミュニケーション能力」を重視。

大学卒業生を採用する際に重視する能力・体験等として、「コミュニケーション能力」（197件、94.7%）と、「主体性・自律性」（169件、81.3%）に対し、回答が目立った。

他にも、半数以上が「目的達成志向」「適応力」「基礎的な学力」を回答しており、他の能力・体験等と比べて採用時に重視する傾向が見られた。

グラフ 大学卒業生を採用する際に重視する能力・体験等（「問4」結果より）※複数回答の結果、回答数が多い

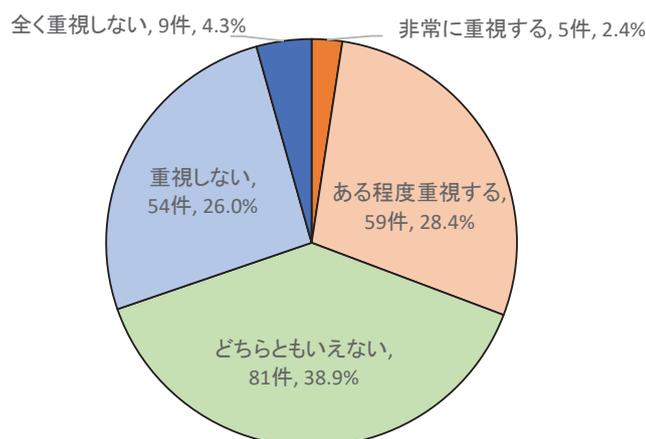


● 3割が、新卒生の採用時に英語能力を「重視する」と回答。

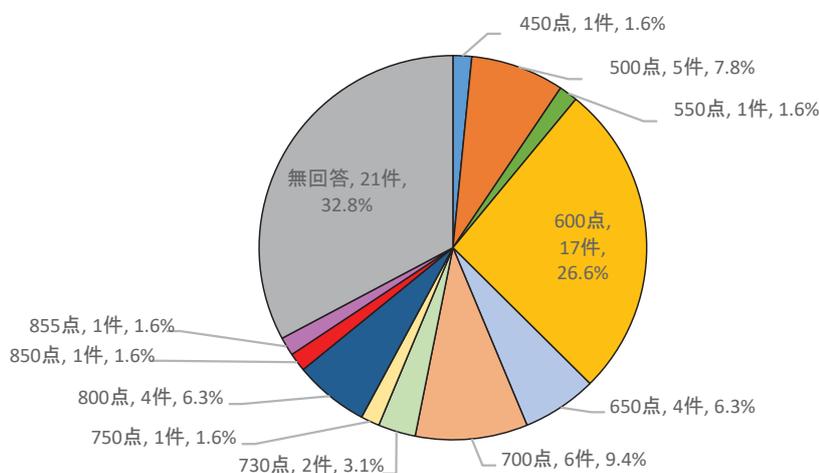
大学卒業生を採用する際に求める英語能力について、5件(2.4%)が「非常に重視する」、59件(28.4%)が「ある程度重視する」と回答し、合計で30.8%にあたる64件が、採用時に英語能力を重視すると回答した。「重視しない」(54件、26.0%)と「全く重視しない」(9件、4.3%)の回答を合計すると63件(30.3%)であることから、本アンケートに回答した企業・団体でみると、英語能力を「重視する」回答が、「重視しない」回答を僅かに上回る結果となった。なお、もっとも多い回答は「どちらともいえない」で、38.9%にあたる81件が回答している。

英語能力を「重視する」と回答した64件に、希望・期待するTOEICスコアについて記述を求めたところ、もっとも記述が多かったスコアは「600点」で、17件(英語能力を「重視する」と回答した64件のうち26.6%)が回答した。

グラフ 大学卒業生を採用する際に求める英語能力(「問5」結果より)



グラフ 英語能力を「重視する」と回答した企業・団体による、求めるTOEICスコア



● 約 9 割が、「国際教養学部 国際教養学科 (仮称)」の各特色について、「評価できる」と回答。

回答を得た 208 件に、武蔵大学が構想する「国際教養学部 国際教養学科 (仮称)」の各特色への評価について質問した。1 つ目の特色『英語による授業を中心としており、実践的かつ高度な英語力が身につく』には、「非常に評価できる」に 120 件、「ある程度評価できる」に 64 件が回答し、合計すると 88.5%にあたる 184 件が評価した。

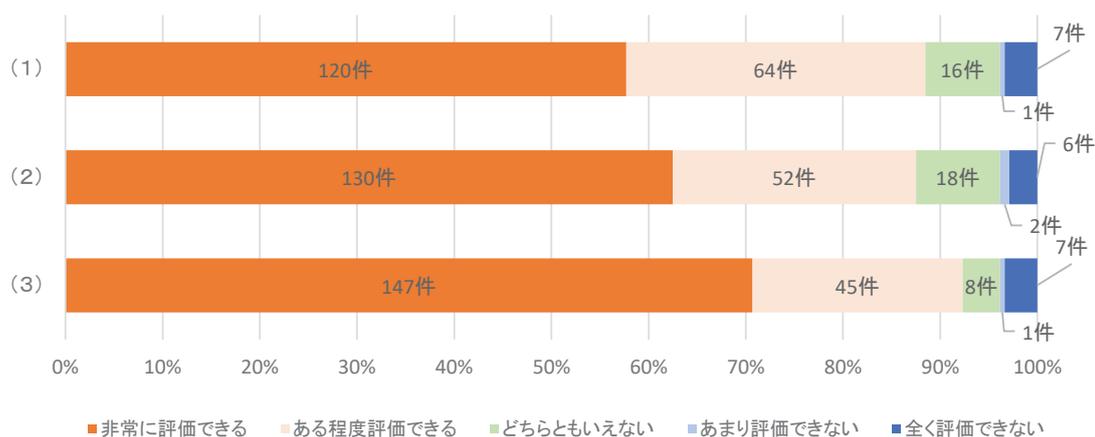
2 つ目の特色『多様な科目履修によって、分野横断的な知識、俯瞰的な視点、批判的思考力が身につく』には、「非常に評価できる」に 130 件、「ある程度評価できる」に 52 件が回答し、合計すると 87.5%にあたる 182 件が評価した。

3 つ目の特色『ゼミナールで学ぶことによって、意見を発信する力、傾聴力、協働の精神が身につく』には、「非常に評価できる」に 147 件、「ある程度評価できる」に 45 件が回答し、合計すると 92.3%にあたる 192 件が評価した。

以上の通り、武蔵大学が構想する「国際教養学部 国際教養学科 (仮称)」の各特色に対し、約 9 割の企業・団体より評価を示す回答が得られた。

グラフ 武蔵大学「国際教養学部 国際教養学科 (仮称)」の特色への評価（「問 6」結果より）

(1)	英語による授業を中心としており、実践的かつ高度な英語力が身につく
(2)	多様な科目履修によって、分野横断的な知識、俯瞰的な視点、批判的思考力が身につく
(3)	ゼミナールで学ぶことによって、意見を発信する力、傾聴力、協働の精神が身につく



● 8割以上が、「経済経営学専攻」、「グローバルスタディーズ専攻」の各特色を評価。

武蔵大学が構想する「国際教養学部 国際教養学科（仮称）」では、「経済経営学専攻（仮称）」と「グローバルスタディーズ専攻（仮称）」という 2 つの専攻を展開することから、各専攻の特色への評価について質問した。

①経済経営学専攻の特色への評価

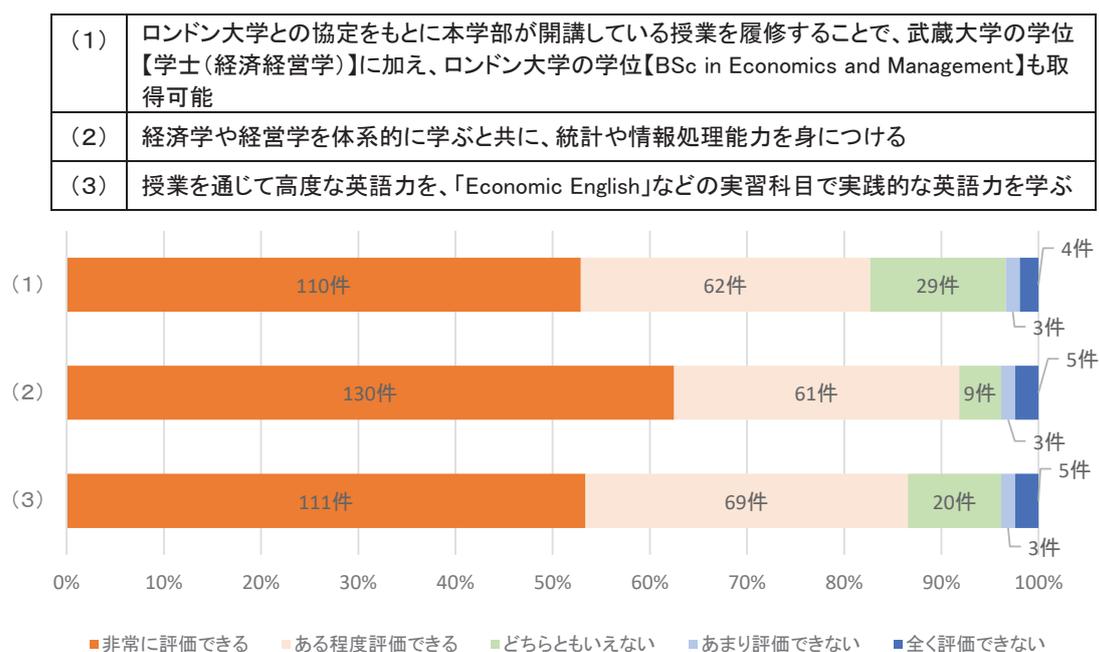
1つ目の特色『ロンドン大学との協定をもとに本学部が開講している授業を履修することで、武蔵大学の学位【学士（経済経営学）】に加え、ロンドン大学の学位【BSc in Economics and Management】も取得可能』には、「非常に評価できる」に 110 件、「ある程度評価できる」に 62 件が回答し、合計すると 82.7%にあたる 172 件が評価した。

2つ目の特色『経済学や経営学を体系的に学ぶと共に、統計や情報処理能力を身につける』には、「非常に評価できる」に 130 件、「ある程度評価できる」に 61 件が回答し、合計すると 91.8%にあたる 191 件が評価した。

3つ目の特色『授業を通じて高度な英語力を、「Economic English」などの実習科目で実践的な英語力を学ぶ』には、「非常に評価できる」に 111 件、「ある程度評価できる」に 69 件が回答し、合計すると 86.5%にあたる 180 件が評価した。

以上の通り、経済経営学専攻の各特色に対し、8割以上の企業・団体より評価を示す回答が得られた。

グラフ 「経済経営学専攻」の特色への評価（「問7」結果より）



②グローバルスタディーズ専攻の特色への評価

1つ目の特色『英語技能を高めるとともに、研究のための調査や資料収集、創造的スキルを養う』には、「非常に評価できる」に107件、「ある程度評価できる」に78件が回答し、合計すると88.9%にあたる185件が評価した。

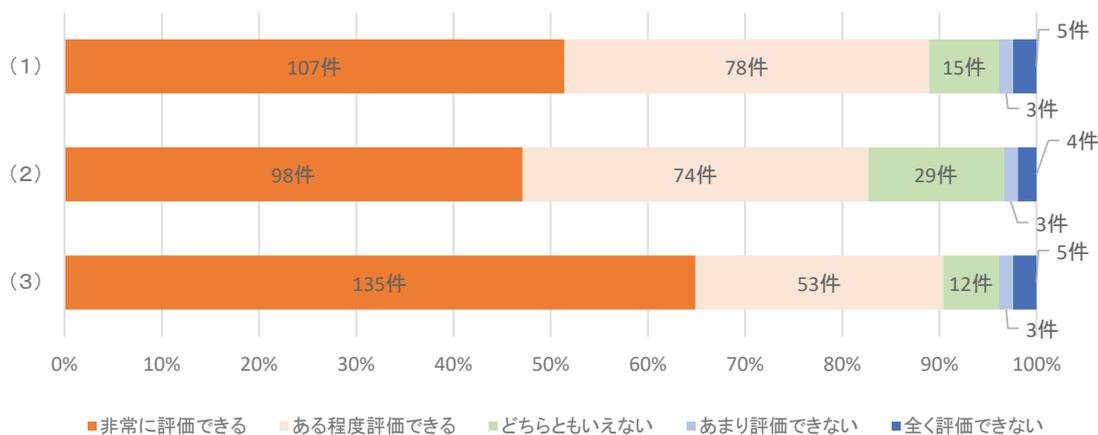
2つ目の特色『人文・社会科学の融合領域すなわちグローバルリレーションズ（国際関係論）、現代社会研究、比較文化研究と日本研究等の専門知識と理解を深める』には、「非常に評価できる」に98件、「ある程度評価できる」に74件が回答し、合計すると82.7%にあたる172件が評価した。

3つ目の特色『海外での学習機会を設け、異文化の中での学修を通じコミュニケーション力、主体的行動力、専門知識を身につける』には、「非常に評価できる」に135件、「ある程度評価できる」に53件が回答し、合計すると90.4%にあたる188件が評価した。

以上の通り、グローバルスタディーズ専攻の各特色に対し、8割以上の企業・団体より評価を示す回答が得られた。

グラフ 「グローバルスタディーズ専攻」の特色への評価（「問7」結果より）

(1)	英語技能を高めるとともに、研究のための調査や資料収集、創造的スキルを養う
(2)	人文・社会科学の融合領域すなわちグローバルリレーションズ（国際関係論）、現代社会研究、比較文化研究と日本研究等の専門知識と理解を深める
(3)	海外での学習機会を設け、異文化の中での学修を通じコミュニケーション力、主体的行動力、専門知識を身につける



● 8割以上が、「国際教養学部 国際教養学科（仮称）」で身につく各能力について、「必要だと思う」と回答。

回答を得た 208 件に、武蔵大学が構想する「国際教養学部 国際教養学科（仮称）」で身につく各能力への必要性について質問した。1つ目の能力の『自然科学、人文科学、社会科学にまたがる学際的な知識・教養・実践力を身につけ、卒業後も知的好奇心をもって学び続ける力を有している』には、「非常に必要だと思う」に 104 件、「ある程度必要だと思う」に 83 件が回答し、合計で 89.9%にあたる 187 件が必要だと回答した。

2つ目の能力の『多文化環境の様々な場面において英語を駆使する力を身につけている』には、「非常に必要だと思う」に 77 件、「ある程度必要だと思う」に 90 件が回答し、合計で 80.3%にあたる 167 件が必要だと回答した。

3つ目の能力の『学びの足場としての日本から世界に問いかける姿勢をもって多様な文明、地球環境、政治と国際関係、経済とテクノロジー、社会と文化の動向に関する知識を修得している』には、「非常に必要だと思う」に 88 件、「ある程度必要だと思う」に 88 件が回答し、合計で 84.6%にあたる 176 件が必要だと回答した。

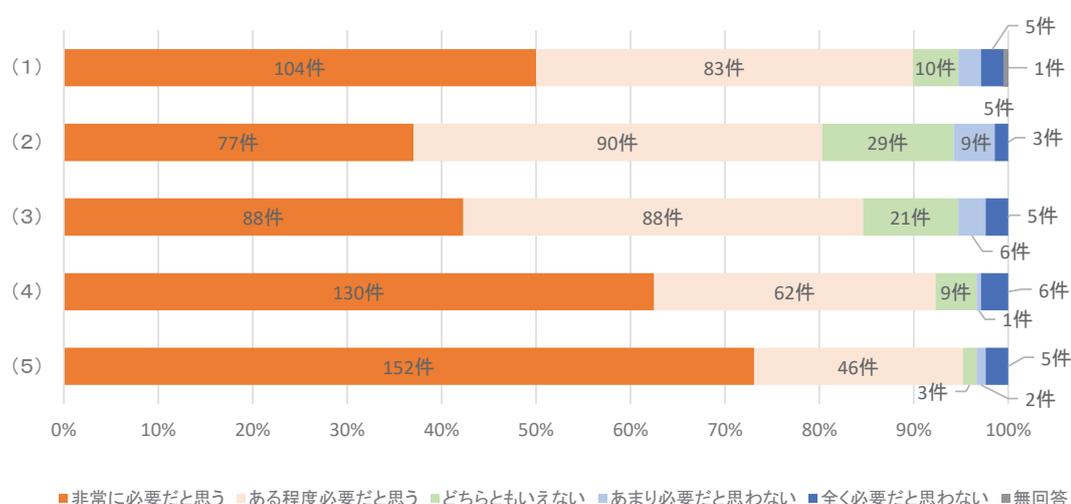
4つ目の能力の『情報収集を効果的に行い有用な情報を得るとともに、データを統計的に分析し問題発見・課題解決に至る力を身につけている』には、「非常に必要だと思う」に 130 件、「ある程度必要だと思う」に 62 件が回答し、合計で 92.3%にあたる 192 件が必要だと回答した。

5つ目の能力の『ゼミナールでの学びを通じて主体的に学ぶなかで、自らの見解や意見を人にわかりやすく伝え、また他者の意見に耳を傾け、協働の精神をもって生産的な議論を行う態度と力を身につけている』には、「非常に必要だと思う」に 152 件、「ある程度必要だと思う」に 46 件が回答し、合計で 95.2%にあたる 198 件が必要だと回答した。

以上の通り、武蔵大学が構想する「国際教養学部 国際教養学科（仮称）」で身につく各能力に対し、8割以上の企業・団体より必要性を示す回答が得られた。

グラフ 武蔵大学「国際教養学部 国際教養学科（仮称）」で身につく能力の必要性（「問8」結果より）

(1)	自然科学、人文科学、社会科学にまたがる学際的な知識・教養・実践力を身につけ、卒業後も知的好奇心をもって学び続ける力を有している
(2)	多文化環境の様々な場面において英語を駆使する力を身につけている
(3)	学びの足場としての日本から世界に問いかける姿勢をもって多様な文明、地球環境、政治と国際関係、経済とテクノロジー、社会と文化の動向に関する知識を修得している
(4)	情報収集を効果的に行い有用な情報を得るとともに、データを統計的に分析し問題発見・課題解決に至る力を身につけている
(5)	ゼミナールでの学びを通じて主体的に学ぶなかで、自らの見解や意見を人にわかりやすく伝え、また他者の意見に耳を傾け、協働の精神をもって生産的な議論を行う態度と力を身につけている



● 9割以上が、各専攻で養成する人材に対し、社会的ニーズがあると回答。

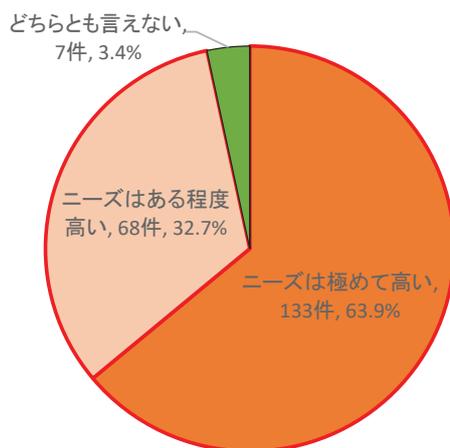
武蔵大学が構想中の「国際教養学部 国際教養学科（仮称）」の「経済経営学専攻（仮称）」で養成する人材に対する社会的ニーズについて、「ニーズは極めて高い」に133件（63.9%）、「ニーズはある程度高い」に68件（32.7%）が回答し、合計で96.6%にあたる201件が社会的ニーズは高いと回答した。

また、「グローバルスタディーズ専攻（仮称）」で養成する人材に対する社会的ニーズについても、「ニーズは極めて高い」に119件（57.2%）、「ニーズはある程度高い」に78件（37.5%）が回答し、合計で94.7%にあたる197件が社会的ニーズは高いと回答した。

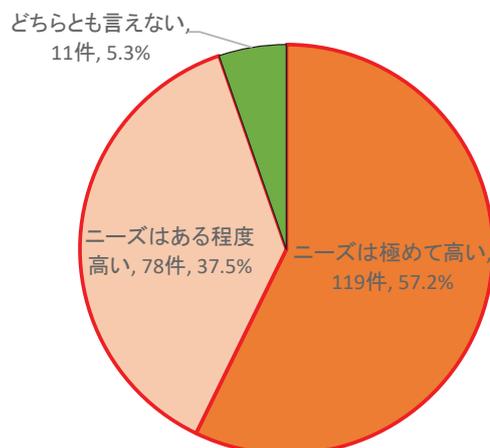
なお、両専攻に対して、「ニーズは高くない」への回答は0件であった。

以上の通り、208件のうち、武蔵大学が構想中の「国際教養学部 国際教養学科（仮称）」の両専攻において、9割以上の企業・団体より、社会的ニーズの高さを示す回答を得ることができた。

グラフ 「経済経営学専攻（仮称）」で養成する人材の社会的ニーズ（「問9」結果より）



グラフ 「グローバルスタディーズ専攻（仮称）」で養成する人材の社会的ニーズ（「問9」結果より）



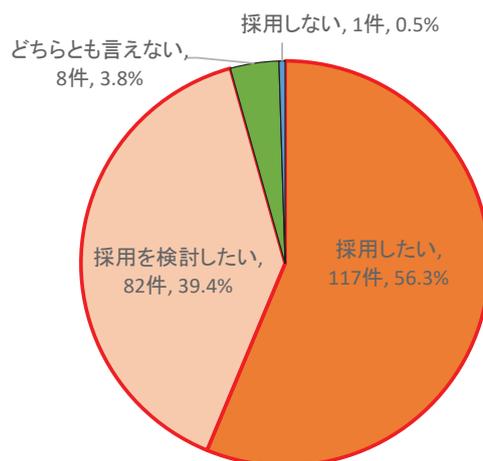
- 「経済経営学専攻」卒業生に 199 件が採用意欲を示し、採用可能人数は 339 名。
- 「グローバルスタディーズ専攻」卒業生に 196 件が採用意欲を示し、採用可能人数は 341 名。

武蔵大学が構想する「国際教養学部 国際教養学科（仮称）」の卒業生への採用意欲について、専攻別に質問した。「経済経営学専攻」については、117 件（56.3%）が「採用したい」、82 件（39.4%）が「採用を検討したい」と回答し、合計で 199 件（95.7%）が採用意欲を示した。採用意欲を示した 199 件には、採用可能な人数への回答を求めており、その合計は 339 名となった（「人数は未確定」の回答は最低人数として「1 名」を計上）。

「グローバルスタディーズ専攻」については、106 件（51.0%）が「採用したい」、90 件（43.3%）が「採用を検討したい」と回答し、合計で 196 件（94.2%）が採用意欲を示した。採用意欲を示した 196 件の採用可能な人数の合計は 341 名であった。

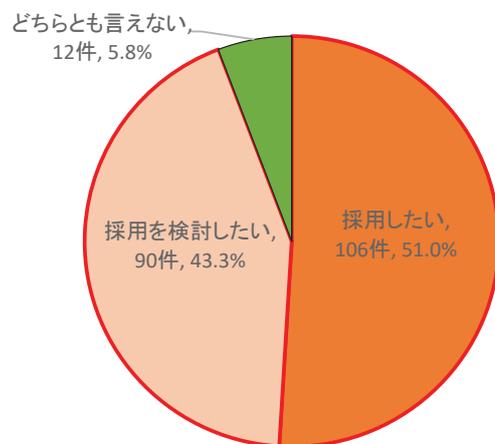
各専攻で得られた採用可能な人数は、武蔵大学が構想中の「国際教養学部 国際教養学科（仮称）」が予定する入学定員 100 名を大幅に上回る人数であった。

グラフと表 「経済経営学専攻」卒業生への採用意欲と採用可能な人数（「問 10」結果より）



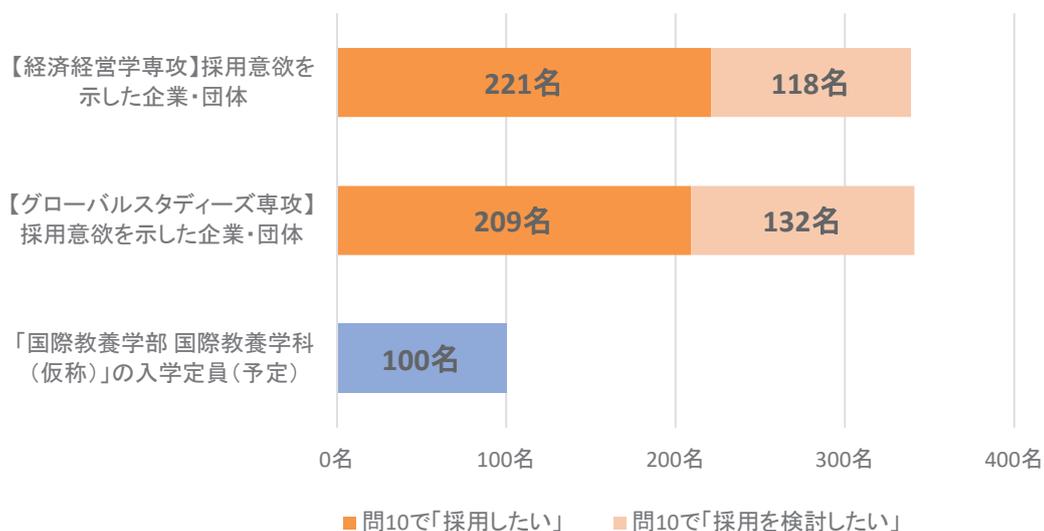
採用可能人数	採用したい		採用を検討したい		合計	
	回答数	合計人数	回答数	合計人数	回答数	合計人数
1 名	26 件	26 名	24 件	24 名	50 件	50 名
2 名	20 件	40 名	16 件	32 名	36 件	72 名
3 名	11 件	33 名	2 件	6 名	13 件	39 名
4 名	1 件	4 名	0 件	0 名	1 件	4 名
5 名以上(5 名として計算)	15 件	75 名	4 件	20 名	19 件	95 名
人数は未確定(1 名として計算)	43 件	43 名	36 件	36 名	79 件	79 名
無回答	1 件	0 名	0 件	0 名	1 件	0 名
合計	117 件	221 名	82 件	118 名	199 件	339 名

グラフと表 「グローバルスタディーズ専攻」卒業生への採用意欲と採用可能な人数（「問10」結果より）



採用可能な人数	採用したい		採用を検討したい		合計	
	回答数	合計人数	回答数	合計人数	回答数	合計人数
1名	22件	22名	27件	27名	49件	49名
2名	19件	38名	14件	28名	33件	66名
3名	13件	39名	3件	9名	16件	48名
4名	2件	8名	1件	4名	3件	12名
5名以上(5名として計算)	13件	65名	5件	25名	18件	90名
人数は未確定(1名として計算)	37件	37名	39件	39名	76件	76名
無回答	0件	0名	1件	0名	1件	0名
合計	106件	209名	90件	132名	196件	341名

グラフ アンケートで得られた採用可能な人数と予定する入学定員との比較（「問10」結果より）



以上の結果より、武蔵大学が令和4年4月に設置構想中である「国際教養学部 国際教養学科(仮称)」の人材需要の見通しは、予定する入学定員を上回る採用意欲を得たことから、十分な需要があり、問題ないと判断できる。

添付資料

「武蔵大学 国際教養学部 国際教養学科（仮称）設置構想に係る企業アンケート調査」用紙

設置構想に係る企業アンケート調査

本学では、2022年に「国際教養学部 国際教養学科（仮称）」の設置を構想しています。この構想中の学部学科では、「経済経営学専攻（仮称）」と「グローバルスタディーズ専攻（仮称）」の2専攻の設置を予定しています。

本学ではこのアンケート調査を通して、将来卒業生の採用をご検討いただく皆様からご意見を賜り、頂戴したご意見を参考にさせていただきながら広く社会に貢献できる人材輩出を行ってまいりたいと考えております。

なお、このアンケートの回答は、設置構想にあたっての統計資料ならびに文部科学省への提出資料としてのみ活用するものであり、企業・団体・個人を特定することや他の目的に使用することは一切ありません。

以上の趣旨を踏まえ、何卒ご協力のほど、謹んでお願い申し上げます。

貴社・貴団体名

※上記の名称記入は任意です。

質問数：11問（所要時間は5～10分程度です）

問1 貴社・貴団体の業種をお答えください。（あてはまるもの1つに○をしてください。）

- | | | |
|------------------|---------------|--------------------|
| 1. 建設業 | 2. 製造業 | 3. 卸売業、小売業 |
| 4. 金融業、保険業 | 5. 不動産業、物品賃貸業 | 6. 交通・運輸業、倉庫業 |
| 7. 電気・ガス・熱供給・水道業 | 8. 情報通信業 | 9. 調査・研究・専門技術サービス業 |
| 10. 宿泊業・飲食サービス業 | 11. 生活関連サービス業 | 12. その他のサービス業 |
| 13. 教育・学習支援業 | 14. 公務・非営利団体 | 15. その他（ ） |

問2 貴社・貴団体の所在地（本社）をお答えください。（都道府県を記入ください。）

（都・道・府・県）

問3 貴社・貴団体の従業員規模はどれに該当しますか。（あてはまるもの1つに○をしてください。）

- | | | |
|-----------------|-----------------|--------------|
| 1. 100名未満 | 2. 100～499名 | 3. 500～999名 |
| 4. 1,000～4,999名 | 5. 5,000～9,999名 | 6. 10,000名以上 |

問4

貴社・貴団体において、大学新卒者を採用する際に、重視する能力・体験等をお答えください。
 (あてはまるものすべてに○をしてください。)

- | | | |
|----------------|---------------|-------------|
| 1. コミュニケーション能力 | 2. 基礎的な学力 | 3. 語学力 |
| 4. 創造的思考力 | 5. 主体性・自律性 | 6. 目的達成志向 |
| 7. 適応力 | 8. インターンシップ経験 | 9. ボランティア経験 |
| 10. 忍耐力 | 11. 理解力 | 12. 論理力 |
| 13. ITスキル | 14. その他 () | |

問5

貴社・貴団体において、大学卒業者を新卒採用する際に、求める英語能力についてお答えください。
 (あてはまるもの1つに○をしてください。)

1. 非常に重視する 2. ある程度重視する 3. どちらともいえない 4. 重視しない 5. 全く重視しない



※希望・期待するTOEICスコアがあれば、お答えください。

() 点程度、希望・期待する

問6

本学が構想中の「国際教養学部 国際教養学科(仮称)」には、主に3つの特色があります。
 各特色について、評価をお聞かせください。(それぞれ、あてはまるもの1つに○をしてください。)

1. 非常に評価できる 2. ある程度評価できる 3. どちらともいえない 4. あまり評価できない 5. 全く評価できない



国際教養学部 国際教養学科の特色		回答欄
(1)	英語による授業を中心としており、実践的かつ高度な英語力が身につく	1・2・3・4・5
(2)	多様な科目履修によって、分野横断的な知識、俯瞰的な視点、批判的思考力が身につく	1・2・3・4・5
(3)	ゼミナールで学ぶことによって、意見を発信する力、傾聴力、協働の精神が身につく	1・2・3・4・5

問7

本学が構想中の「国際教養学部 国際教養学科（仮称）」には、2つの専攻があります。各専攻の特色について、評価をお聞かせください。（それぞれ、あてはまるもの1つに○をしてください。）

1. 非常に評価できる 2. ある程度評価できる 3. どちらともいえない 4. あまり評価できない 5. 全く評価できない



①【経済経営学専攻】の特色		回答欄
(1)	ロンドン大学との協定をもとに本学部が開講している授業を履修することで、武蔵大学の学位【学士（経済経営学）】に加え、ロンドン大学の学位【BSc in Economics and Management】も取得可能	1・2・3・4・5
(2)	経済学や経営学を体系的に学ぶと共に、統計や情報処理能力を身につける	1・2・3・4・5
(3)	授業を通じて高度な英語力を、「Economic English」などの実習科目で実践的な英語力を学ぶ	1・2・3・4・5

②【グローバルスタディーズ専攻】の特色		回答欄
(1)	英語技能を高めるとともに、研究のための調査や資料収集、創造的スキルを養う	1・2・3・4・5
(2)	人文・社会科学の融合領域すなわちグローバルリレーションズ（国際関係論）、現代社会研究、比較文化研究と日本研究等の専門知識と理解を深める	1・2・3・4・5
(3)	海外での学習機会を設け、異文化の中での学修を通じコミュニケーション力、主体的行動力、専門知識を身につける	1・2・3・4・5

問8

本学が構想中の「国際教養学部 国際教養学科（仮称）」で身につく各能力について、貴社・貴団体でどの程度必要かお答えください。（それぞれ、あてはまるもの1つに○をしてください。）

1. 非常に必要だと思う 2. ある程度必要だと思う 3. どちらともいえない 4. あまり必要だと思わない 5. 全く必要だと思わない



国際教養学部 国際教養学科で身につく能力		回答欄
(1)	自然科学、人文科学、社会科学にまたがる学際的な知識・教養・実践力を身につけ、卒業後も知的好奇心をもって学び続ける力を有している	1・2・3・4・5
(2)	多文化環境の様々な場面において英語を駆使する力を身につけている	1・2・3・4・5
(3)	学びの足場としての日本から世界に問いかける姿勢をもって多様な文明、地球環境、政治と国際関係、経済とテクノロジー、社会と文化の動向に関する知識を修得している	1・2・3・4・5
(4)	情報収集を効果的に行い有用な情報を得るとともに、データを統計的に分析し問題発見・課題解決に至る力を身につけている	1・2・3・4・5
(5)	ゼミナールでの学びを通じて主体的に学ばなかで、自らの見解や意見を人にわかりやすく伝え、また他者の意見に耳を傾け、協働の精神をもって生産的な議論を行う態度と力を身につけている	1・2・3・4・5

問9

本学が構想中の「経済経営学専攻（仮称）」および「グローバルスタディーズ専攻（仮称）」で養成する人材は、社会的ニーズが高いと思われますか。（あてはまる番号を枠内にそれぞれ記入）

1. ニーズは極めて高い 2. ニーズはある程度高い 3. どちらとも言えない 4. ニーズは高くない

経済経営学専攻
（仮称）

グローバルスタディーズ専攻
（仮称）

問10

本学が構想中の「経済経営学専攻（仮称）」および「グローバルスタディーズ専攻（仮称）」を卒業する学生を、採用したいと思いますか。

（《A群》から専攻ごとにあてはまる番号を枠内に記入し、1または2の場合、《B群》の番号をご記入ください。）

《A群》採用意欲

1. 採用したい	}
2. 採用を検討したい	
3. どちらとも言えない	
4. 採用しない	

《B群》採用可能な人数

1. 1名
2. 2名
3. 3名
4. 4名
5. 5名以上
6. 人数は未確定

《A群》

経済経営学専攻
（仮称）



《B群》

グローバルスタディーズ専攻
（仮称）



問11

本学が構想中の「国際教養学部 国際教養学科（仮称）」に対して、期待される点やご要望がありましたらご自由にお書きください。